

國語讀方教法及教授案

尋常小學科
二學年前期



言

緒

緒言

一本書は、文部省著作尋常小學讀本の教師用書として編纂したる者なり。

一本書は、一學年を四十週と假定し、各課の材料を之に配當して毎時の教案を定めたり。

一教案は、之を以て直ちに教室に望んで教授するに適せしめんとせり。故に補を細密に其順序を示したりと雖、五段の形式を表はすことをなさざりき。是れ記事の煩雜に亘るを避けんが爲に外ならず。

一本書の編述は、數名の手によりて成れる者にて、教授の方法・他學科との連絡・教材の解説等に關しては、最も周到なる注意を加へたり。本書によりて實地に教授せられたる諸氏は、その事項の細大に關せず、十分御批評の上御忠告あらんことを切望す。

編者識

治 4 5
内交

日本書籍株式會社編纂

國語讀方教法及教授案

日本書籍株式會社

國語讀方教法及教授案 尋常小學校 第二學年前期

目次

頁	目
	句讀の點附法……………一
第一	タンポポ……………三
第二	サクラ……………一九
第三	ナノハナ……………三〇
第四	ツバメ……………四二
第五	ツバメトスズメ……………五六
第六	アメ……………七四
第七	コガハ……………八五
第八	タケノコ……………九六
第九	カシノキトタケ……………一〇〇
第十	うめのみ……………一二六
第十一	ホタル……………一三八
	第十二 せんたく……………一五三
	第十三 シホー……………一五九
	第十四 日とにじ……………一七四
	第十五 せみ……………一九一
	第十六 あさがほ……………二〇九
	第十七 ウミ……………二一六
	第十八 からすとはまぐり……………二三四
	第十九 ブドー……………二四九
	第二十 とけい……………二六一
	附録 既習漢字表……………二六一

句讀の點の付法

國語讀方教法及教授案

尋常小學校 第二學年前期

句讀の點付法

本書の内にて句讀法につきて注意すべきは左の如し。

タンポポ、ノハラナドニ、サキマス。(第一課)

キノハナニテキマス。(第一課)

右二章は一見すれば同様の文の組織の如くに思はるれどもその句讀の付し方に右の如き差あり。之れ次の如き理由に基けり。

前文のサキマスの説明語はノハラナドニといふ客語ありて始て意味完全なるべきものにて、是れなければ意味稍不明瞭となるが故に客語たるノハラナドニといふ語を加へたれば從てその前後に、を付したるなり。

後文のニテキマスは之のみにては何に似たるや不明なればキノハナ

ニといふ語は當然要すべきものなるが故に其間に、を付せざるなり。

オチヨトオタケトガ、シローカナウタッテ、アソンデキマス。(第三課)

右の文の中オチヨトオタケトガの下のは文法上なくても可なれども便宜上読み易きために加へたるなり。

以下の文皆これと同様の主義にて句讀を施せるを以て其意を了して解釋すべし。

第一 タンポポ

教授の目的

内容上

蒲公英につきて庶物教授をなし、以て其觀念を明瞭ならしむると共に、理科的興味を興へんとす。

形式上

又始めて平假名へりかやの四字を授く。片假名にて綴りたる文章を読み且つ理解する能を養ふ。

時間の配當

- 第一時 始めより……………タイテイキイロデス
- 第二時 タンポポノハナハ……………ミツケマシタ
- 第三時 ソシテソレヲ……………ツギノヨーニイヒマシタ
- 第四時 アータイソー……………ツボンデシマヒマス
- 第五時 ソシテツギノ……………終りまで

第六時 全課の復習

第七時 へりかやの教授

教 授 案

第一時

始
タイテイキイロアスマテ

目的指示

本日からは蒲公英につきて教授せん。

豫備及教授

汝等此頃野原に遊びに行きしならん。野原には如何なる花咲きしか。……汝等の知るものを挙げよ。

二 蒲公英の實物を示して……是は何の花か。

三 タンポポノハナと板書す。

四 蒲公英の花は何れの場所に咲くか。

五 ノハラナドと板書す。

六 此の花は如何なる色か。黄色の外の色はあらざるか。

七 タイテイキイロと板書す。

八 花の部分莖、葉及其形状等を實物によりて問答す。

九 黑板上に提出せる文字を讀ましむ。

十 書籍につきて本日の處の讀み方を豫習せしむ。

十一 教師讀み方の模範を示し、優等生より順次に之れを練習せしむ。

十二 兒童をして本日の處を話さしめ、又は之れを書き取らしむ。

練習及應用

一 スミノノハナモノハラナドニサキマスと書け。

二 キイロノハナハタンポポデスと書け。

三 タンポポノハナハノハラナドニサイテ、タイテイキイロデス。と書かしむ。

備考及注意

- 一 蒲公英の實物を準備し置き、教科書の繪畫と相待ちて其庶物觀念を收得せしむべし。
- 二 練習すべき言語……ノハラナド、タイテイ、キイロデス。
- 三 注意すべき假名遣……キイロ。

第一二時

タンボボノハナハヨリ
ミツケマシタマて

目的指示

本日も蒲公英の花につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 蒲公英の花は何處に咲くか。ノハラナドと書け。
- 二 蒲公英の花は大抵如何なる色をなすかタイテイキイロと書け。
- 三 蒲公英の花は何の花によく似て居るか。
- 四 キクノハナと書け。

練習及應用

- 五 或る日オチヨが學校の運動場にて、蒲公英の花を見つれたり。
 - 六 ウンドーバと書け。
 - 七 ミツケマシタと板書す。
 - 八 黑板上に書せる文字の讀み方を練習せしむ。
 - 九 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
 - 十 優等生一兩名をして讀ましむ。
 - 十一 本日の處の大體の意義を説話せしむ。
 - 十二 教師の範讀、兒童の練習
 - 十三 話し方・書き方の練習
- 練習及應用
- 一 オチヨハオハナニニテキマス。と書け。
 - 二 タンボボノハナガウンドーバニサイテキマシタ。と書け。
 - 三 キイロナキクノハナナミツケマシタ。と書け。

備考及注意

- 一 練習すべき言語……ニテキマス、アルヒ、ミツケマシタ。

第三時

ツギノヨロニイロマシタより

目的指示

オチヨが蒲公英の花を、運動場にて見つけそれを如何にせしかを教授せん。

豫備及教授

- 一 蒲公英の花は何の花によく似て居るか。キクノハナニニテキマスと書け。
- 二 オチヨは何處で蒲公英の花を見つけたるか。ウンドーバと書け。
- 三 オチヨは蒲公英の花を採つて先生に見せたり。
- 四 ソレヲトツテと板書す。

- 五 センセイと書け。
- 六 生先ば蒲公英の花を見て次の様にいひたり。
- 七 ツギノヨロニと板書す。
- 八 先生が如何なることをいひしかは次の時間に教へん。
- 九 本日の處を復演せしむ。
- 十 黑板上に提出せし文字の讀み方を練習せしむ。
- 十一 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
- 十二 優等生一兩名をして之れを讀ましむ。
- 十三 教師の範讀、兒童の練習
- 十四 話し方及書き方の練習

練習及應用

- 一 タンボボナトツテセンセイニミセマシタ。と書け。
- 二 ソレヲトツテミセテクダサイ。と書け。

三 ツギノヨ一ニヒマシタ。と書け。

備考及注意

一 練習すべき言語……ツシテ、ソレヲ、ミセマシタ、ツギノヨ一ニ。

第四時

ア一ダイソ一キレイニサ一テキマス。と書け。

目的指示

先生はオチヨに何といひしかにつきて教へん。

豫備及教授

一 オチヨは蒲公英の花を探りて如何にせしか、センセイニミセマシタと書け。

二 先生は蒲公英の花を見て何といひしかツギノヨ一と書け。

三 大層奇麗ですね……と先生がいひました。又この花は晝の間はこのように奇麗に咲いてゐますが、よるになるとつぼんでしまひます

と云ひました。

四 タイソ一キレイと板書す。

五 ヒルノアヒダと板書す。

六 コノヨ一ニと書け。

七 ヨルニナルトと書け。

八 ツボンデシマヒマスと板書す。

九 今までの處を復演せしむ。

十 黑板上に提出せし文字の読み方を練習せしむ。

十一 本日の處を書籍によりて豫習せしむ。

十二 教師の範讀、優等生より順次兒童の練習

十三 話し方及書き方の練習

練習及應用

一 タイソ一キレイニサ一テキマス。と書け。

- 二 ヒルノアヒダハユノヨ一ニサイテキマス。と書け。
- 三 コノハナハヨルニナルトツボンデシマヒマス。と書け。

十二

備考及注意

- 一 練習すべき言語……ダイソ一、キレイデス、ヒルノアイダ、コノヨ一、ツボンデシマヒマス。
- 二 注意すべき假名遣……アヒダ、ツボンデシマヒマス。

第五時

ツシテツギノヨリ

目的指示

先生がオチヨに話せし續きを教へん。

豫備及教授

- 一 蒲公英は何時此の如く奇麗に咲くか。ヒルノアヒダと書け。
- 二 よるになると如何になるか。ツボンデシマヒマスと書け。

- 三 そして次の日になると又このよ一にさきます。
- 四 ツギノヒと板書す。
- 五 ハナと書け。
- 六 本日の處を復演せしむ。
- 七 黑板上に提出せし文字の読み方を練習せしむ。
- 八 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
- 九 先づ優等生をして之れを讀ましめ次第に劣等生に及ぶ。
- 十 話し方及書き方の練習

練習及應用

- 一 ヨガアケテツギノヒニナリマシタ。と書け。
- 二 ツボンデマタサキマス。と書け。
- 三 コノヨ一ニタンボボノハナガサキマシタ。と書け。

備考及注意

十三

一 練習すべき言語……ソシテ、ツギノヒ、マタ。

第六時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさん。

復習の方法

- 一 蒲公英の花は何處に咲くか。
- 二 蒲公英の花は如何なる色か。
- 三 蒲公英の花は何の花に似て居るか。
- 四 オチヨは運動場にて何を見つけしか。
- 五 それを如何なる人に見せしか。
- 六 先生は其の蒲公英の花を見て何といひしか。
- 七 蒲公英の花は晝の間と夜とによりて如何に變るか。

練習及應用

一字句の書取

タンボボ、ノハラ、タイテイ、キイロデス、キクノハナニニテキマス、
 オチヨサン、ミツケ、センセイ、ツギノヨ、イヒマシタ、キレイデ
 ス、タイソー、ヒルノアヒダ、サイテキマス、ヨルニナルト、ツボン
 デシマヒマス。

二 約文

タンボボノハナハノハラナドニサキマス。
 オチヨガタンボボノハナヲトツテセンセイニミセマシタ。
 タンボボノハナハヒルノアヒダハサイテキマスガ、ヨルニナルト

ツボンデシマヒマス。

備考及注意

一 一時間中復習を課する場合にありては、可成其形式を變化して兒童をして倦怠厭惡の心を惹起せしめざる様注意すべし。

今左に數例を示さん。

1. 問答法によりて全課の意味、文字及言語の練習を一切復習する方法
 2. 單に其文中に包含されたる難字、難句の書取によりて復習す。
 3. 歌詞美文の如きは達讀を主とするが故に朗讀又は誦讀法によりて復習せしむ。
 4. 全課の内容を問答して其大要を約文せしむ。
 5. 全課を數段に分ち一段若干の兒童をして之を讀ましめ又は話さしむ。
- 二 右の方法中二三を斟酌して實際に適切なる方案を立つべし。

第七時

のへりかやの教授

目的指示

本日は新しき字の書き方を教授せん。

豫備及教授

- 一 へり・か・やを一字づゝ板書して兒童をして其發音文字の讀み方及書き方を復習す。
- 二 右の如き假名は既に習ひたり右の如き假名を片假名といふ。此外尙ほ書き方の異なる假名あり之れを平假名と云ふ。今日より教へん。
- 三 への字の讀み方・書き方を教へ、片假名へと比較して相異の點を知らしむ。
- 四 りの字の讀み方及書き方を教授し片假名りと比較して其の相異の點を知らしむ。
- 五 かの字を提出して其讀み方及書き方を授け、片假名力と對照して相違の點を明かならしむ。
- 六 やの字につきて讀み方書き方を教へ片假名やとの比較をなさしむ。

練習及應用

- 一 へりかやの中一音若くは數音を以て現はし得べき事物の名稱言語をげしむ。
- 二 左の字句を讀みて若くは書き取らしむ。
へや(室)かや(蚊屋)やり(槍)やへ(八重)おかへりてすか等

備考及注意

- 一 へりかやの平假名は其形狀片假名と略相同じければ、其異同を比較して其區別をならしめんことを要す。
- 二 平假名の練習及應用は片假名と殆ど相異なる所なし。故に今は之を省略せり。宜しく片假名教授の部を参照すべし。

第二 二 サクラ

教授の目的

内容上 櫻につきて庶物教授をなし、其觀念を明瞭ならしめ且つ理科的興味を與へ、又

其美を感ぜしむ。

形式上

片假名にて綴りたる文字文章を讀み且つ理解する能を養ひ又くしんちの平假名の讀み方書き方を教授す。

時間の配當

- 第一時 初より……………アソソデキマス
- 第二時 カゼガ……………チッテキマス
- 第三時 サクラソハナハ……………終りまで
- 第四時 全課の復習
- 第五時 くしんちの教授

教授案

第一時

初めキマスまで
アソンドキマスまで

目的指示

本日より櫻につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 此頃は山や庭園等の種々の樹木に種々の花が咲けり。汝等は其花の名を知れるか。之れを擧げよ。
- 二 櫻花の實物を示して……此の花は何か。
- 三 サクラノハナと板上に提出す。
- 四 此の花は如何なる色か。
此の花が散りし後には如何なる果實を結ぶか
- 五 繪畫につきて……此處に何の花が咲けるか。
- 六 キレイニサイテイマスと板書す。

練習及應用

- 七 此の櫻樹の下に子供が何かして居ます。
 - 八 コドモと書け。
 - 九 子供が何をなしつゝあるか。
 - 十 アソンドキマスと板書す。
 - 十一 黑板上に提出せる文字の読み方を練習せしむ。
 - 十二 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
 - 十三 優等なる児童より順次に之を讀ましむ。
 - 十四 優等なる児童より順次に之を説話せしむ。
 - 十五 讀み方・話し方及書き方の練習を命ず。
- 練習及應用
- 一 キレイニサイテイセルノハサクラノハナデス。と書け。
 - 二 サクラノキノシタニアソンドキセルノハユドモデス。と書け。
 - 三 オダケトオチヨトガキノシタニアソンドキマス。と書け。

備考及注意

- 一 練習すべき言語……サクラ、キレイニサイテ、キノシタデ。

第二一時

カセガヨリ
チツテキマス

目的指示

昨日の續きを教授せん。

豫備及教授

- 一 (繪畫を掲げて)櫻花が奇麗に咲いてゐます。
- 二 子供が櫻の木の下で何をして居ますか。
- 三 子供の周圍にちらくとしてゐるのは何か。
- 四 ハナビラと板書す。
- 五 風が吹いて花瓣がちらくとちつてゐます。(兒童をして順次語らしむ)

練習及應用

- 一 チラチラトチツテキマスノハサクラノハナデス。と書け。
- 二 カゼガフイテハナガチツテキマス。と書け。

備 及 題

- 一 練習すべき言語……フイテ、ハナビラ、チラチラ、チツテキマス。

第三時

サクラノハナヨリ
終り

目的指示

本日はその續きを教授せん。

豫備及教授

- 一 昨日の處の讀み方を復習せしむ。
- 二 大體の話し方をなさしむ。
- 三 ハナビラガチッテキマスと書け。
- 四 櫻の花の花弁はいくつづつあるかみなさんはそれをしつてゐますか。
- 五 ミナサンと板書す。
- 六 シッテキマスカと板書す。
- 七 教師二三の櫻花を示し……之を見よ大抵一つの花にハナビラガ五つづつついて居ます。(兒童をして順次に此の如く語らしむべし)
- 八 五ツツツと板書す。
- 九 ツイテキマスと書け。

- 十 黑板上に提出せし文字の讀み方を練習せしむ。
- 十一 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
- 十二 教師の範讀及兒童の練習。
- 十三 話方及書き方の練習を命ず。

練習及應用

- 一 エレナシッテキマスカ。と書け。
- 二 一ツノハナニハナビラハ五ツツツツイテキマス。と書け。

備考及注意

- 一 櫻花の實物によりて五瓣の花なることを知らしめ尙ほ兒童の知れる五瓣の花あらば言はしむべし、桃は如何梅は如何杯問ひ放しにするもよし。
- 二 練習すべき言語……五ツツツ、ツイテキマス、ミナサン、シッテキマスカ。

第四時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさん。
復習及方法

- 一 本課を一段落づつ各兒童に讀ましめ以て復習す。
- 二 一段落毎に話さしむ。
- 三 全課を通じて流暢に達讀せしむ。
- 四 全課の大畧を話さしむ。

練習及應用

- 一 字句の
 - サクラノハナ、サク、キノシタ、ハナビラ、チラチラ、チッテキマス、
 - 五ツツツ、ツイテキル、ミナサン、シッテキマス。

二 約文

サクラノハナノシタデユドモガニニンアソンデキマス。
ハナビラガチラチラチッテキマス。

サクラノハナハタイタイ一ツノハナニハナビラガ五ツツツイテ
キマス。

第五時

の教授

目的指示

本日は平假名く・し・さ・ま・ら・ちの六字を教授せん。

豫備及教授

- 一 ク・シ・サ・キ・ラ・チを一字づつ黑板に書して其發音、讀み方及書き方の復習をなさしむ。
- 二 右と同時にく・の字を提出して其讀み方及書き方を授け及練習をなさしむ。
- 三 し・の字の讀み方及書き方の教授及練習をなし猶ほ「く」の字と比較して其異同の點を知らしむ。

- 四 さきの字の読み方及書き方の教授及練習をなし又「さ」と「き」の相違の點を知らしむ。
- 五 ら・ちの字を提出し其読み方・書き方の教授及練習をなし、「ら」と「ち」と異同の點を知らしむ。

練習及應用

- 一 く・し・ち・さ・ら・ちの一字乃至六字を以て現はし得べき事物の名稱及言語を擧げしむ。
- 二 左の字句を書き取らしめ又は讀ましむ。
くし(櫛)・くぎ(釘)・ちち(乳)・さら(皿)等
- 三 此頃何につきて習ひしか。さくらと書け。
- 四 汝等やへざくらといふを知れるか。どんな花か。やへざくらと書け。
- 五 櫻は何かきと書け。
- 六 蒲公英は何か。くさどけ書。

備考及注意

- 一 平假名を教ふるには片假名と關係を保ちて教ふることを要す。例へばくは夕に、しはシにさきはサキに、關係せしむるが如し。

第三 ナノハナ

教授の目的

内容上

菜の花につきて庶物教授をなし、以て理科的興味を興ふ。

形式上

片假名にて書かれたる文章を読み且つ解する能を養ひ又のんはほたなの平假名の読み方書き方を教授す。

時間の配當

第一時

初めより……………アソンドキマス

第二時

チヨイチヨ……………トマレ

第三時

ナノハナハ……………ツイテキマス

第四時

ナノハナハタイテイ……………終りまで

第五時

全課の復習

第六時

のんはほたなの教授

教授案

第一時

初めより
アソンドキマスまで

目的指示

本日より菜の花につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 野へ出でて田畝を眺むれば色々な花がさいてゐます。
- 二 此れは何か……………讀本の繪畫又は掛圖……………につきて、色は如何。
- 三 ナノハナと提出す。
- 四 此れは何か(讀本の繪畫につきて)羽の色は如何。
- 五 チヨイチヨと板書す。
- 六 蝶は菜の花に如何にして居ます。
- 七 トマツテキマスと書け。
- 八 此處に兩人の女の子が居るが此れはオチヨとオタケなり。

- 九 オチヨオタケと書かしむ。
- 十 黒板上に提出せし文字の読み方を練習せしむ。
- 十一 書籍につきて豫習せしむ。
- 十二 優等なる児童より順次之れを讀ましむ。
- 十三 意義を話さしむ。
- 十四 教師の範讀と児童練習
- 十五 話し方及書き方を練習せしむ。

練習及應用

- 一 チョーチョガキイロイナノハナニトマッテキマス。と書け。
- 二 オチヨガシヨーカーナウタッテキマス。と書け。
- 三 チョーチョガナノハナニアソソデキマス。と書け。

備考及注意

一 練習すべき言語……キイロイ、トマッテ、シヨーカー、ウタッテ。

二 注意すべき假名遣……キイロイ、チョーチョ。

第二一時

トマッテヨリ

目的指示

今日はオチヨとオタケとが唱ひし歌を教授せん。

豫備及教授

- 一 菜の花の上に何がとまって居るか。キイロイチョーチョと書け。
- 二 オチヨとオタケとは何をして居るか。シヨーカーウタッテと書け。
- 三 オチヨとオタケとは蝶々の唱歌を唱ひて遊んで居る。汝等は蝶々の唱歌を知れりや。
- 四 蝶々の歌は書籍に書いてある故、之を讀め。
- 五 書籍を開きて豫習せしむ。
- 六 優等生より順次之を讀ましむ。

- 七 歌詞の大意を話さしむ。
- 八 教師の範讀、兒童の練習
- 九 書き方練習を命ず。

練習及應用

- 一 ナノハナニトマレ。と書け。
- 二 サクラノハナニトマレ。と書け。

備考及注意

- 一 此の歌詞を教ふる際若し兒童が既に唱歌に於て習ひしものなるときは他教室の妨害とならざる限り唱はしむるをよしとす。
- 二 練習すべし言語……トマレ、アイタラ。

第三時

ナノハナハヨリ
ツイテキマスまで

目的指示

菜の花の形状につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 昨日の歌の読み方を復習せしむ。
- 二 菜の花は一つの花に花瓣がいくつあるか。
- 三 四ツアリマスと板書す。
- 四 その四つの花瓣が恰も十の字のように付いて居ます。
- 五 十ノジノヨ一ニと板書す。
- 六 黑板上に提出せし文字の読み方を練習せしむ。
- 七 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
- 八 優等生より順次に読み方を練習せしむ。
- 九 意義を話さしむ。
- 十 書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 菜の花は一つの花に花瓣がいくつありしか。
- 二 一ツノハナニ四ツアリマス。と書け。
- 三 そして四つの花瓣が如何なる字のよーについて居るか。
- 四 そして十ノジノヨ一ニツイテキマス。と書け。

備考及注意

- 一 菜の花の實物を示して、明瞭なる觀念を興ふべし。
- 二 練習すべき言語……ソシテ、十ノジノヨ一ニ。

第四時

終ハナハナハタイテイヨリ

目的指示

本日も菜の花につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 菜の花は花瓣がいくつあるか。四ツアリマスと書け。

- 二 花瓣が如何なる形につき居るか。十ノジノヨ一ニと書け。
- 三 菜の花の色は如何なる色か。
- 四 キイロと書け。
- 五 汝等が今すでに習ひし中に黄色の花ありしが何なりしか
- 六 タンポポノハナと書け。
- 七 黑板上の文字の讀み方を練習す。
- 八 書籍につきて豫習せしむ。
- 九 優等生より順次に讀み方を練習せしむ。
- 十 意義を話さしむ。
- 十一 書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 菜の花は何の花の如く黄色か。
- 二 タンポポノハナノヨ一ニキイロデス。と書け。

三 キイロノハナビラガ十ノジノヨ一ニツイテキマス。と書け。

三十八

第五時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさしむ。

復習の方法

- 一 (此中の繪畫又は掛圖を示して)此の菜の花には何がとまって居るか。
- 二 オチヨ・オタケの二人は如何なる唱歌を唱ひて居るか。
- 三 菜の花の花びらにつきて話せ。
- 四 如何なる字の形に似て居るか。
- 五 花の色は何の花に似て居るか。
- 六 一段落づつ読み方を復習せしむ。

七 読み方と共に其の意義を話さしむ

練習及應用

一 字句の書取

ギイロイチヨ一チヨ、シロイチヨ一チヨ。
 オチヨ、オタケ、シヨ一カ、ウタフ。
 アイタラ、十ノジノヨ一。

二 約文

- 三 ナノハナニキイロイチヨ一チヨガトマッテキマス。
- 四 オチヨトオタケトガチヨ一チヨノシヨ一カチウタッテキマス
- 五 四ツノハナビラガ十ノジノヨ一ニツイテキマス。

第六時

のんはほたな
教 授

豫備及教授

- 一 ノ此は何といふ字か。其の讀み方・書き方を復習す。
- 二 平假名にてのの字を教へん……「の」字提出、讀み方・書き方の教授及練習
- 三 ン此は如何なる字か。平假名にてんの字を教へん。
- 四 んの字提出、讀み方・書き方の教授及練習をなす。
- 五 ハ・ホの片假名を提出して、其發音讀み方及書き方を復習す。
- 六 平假名はほを提出し讀み方書き方を教授練習せしめ、兼ねてほととを比較せしむ。
- 七 タ・ナの片假名を提出して讀み方・書き方等を復習す。
- 八 た・なの平假名の讀み方・書き方を教へ、且つ練習せしめ及たとなの異同の點を比較せしむ。

練習及應用

- 一 の・んはほ・た・なの一字乃至六字を以て現はし得べき言語及事物

の名稱を擧げしむ。

- 二 此頃如何なることを教へられしか。なののはなと書け。
- 三 菜の花には蝶のみならず蜂もとまります。はちと書け。
- 四 菜の花の色は何の花の如くなるか。たんぽぽと書け。

備考及注意

- 一 平假名の濁音半濁音は片假名より推知せしむべし。

第四 ツバメ

教授の目的

内容上 燕につきて教授をなし以て其觀念を明瞭ならしむると共に理科的興味を興ふ。

形式上 片假名にて書きたる文章を読み且つ解する能を養ひ又とつゝろめあぬの平假名を教授す。

時間ノ配當

- 第一時 第四課初行……………デハアリマセンカ
- 第二時 ヨノトリハ……………トルユトガデキマス
- 第三時 ツバメハ……………カハイガリマス
- 第四時 ヨノトリハアタタカナ……………終まで
- 第五時 全課の復習
- 六 平假名とつゝろめあぬの教授

教授案

第一時

第四課初行より
アリマセンかまで

目的指示

本日より燕につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 (書中の繪畫又は掛圖につきて)此處に何が居るか。何羽居るか。
- 二 トリガーハと板書す。
- 三 此の鳥は何處に居るか。
- 四 ノキと書け。
- 五 此の鳥と同じ様な鳥が他に居らざるか。
- 六 オナジヨ一ナと板書す。
- 七 ムコ一と書け。

- 八 ムカフと書くことを教授し読み方を豫習す。
- 九 黑板上に提出せし文字の読み方を練習す。
- 十 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
- 十一 優等生二三名をして本日の處を讀ましむ。
- 十二 意義を話さしむ。
- 十三 教師の範讀、兒童の練習
- 十四 書き方の練習

練習及應用

- 一 ヒトガヒトリハタライテキマス。と書け。
- 二 トリガ一ハムカフカラトンドキマス。と書け。
- 三 マー。ハヤクトン、デクルデハアリマセンカ。と書け。

備考及注意

- 一 カフを以て現はし得べき言語及文字の練習をなすべし。

二 練習すべき言語……ハタライテ、オナジョリナ、ムカフ、マーハヤク、デハアリマセンカ。

第二一時

コソトリハヨリ
トルニトガキマスまで

目的指示

燕の形状につきて教授せんとす。

豫備及教授

- 一 鳥が一羽何處で何をなし居りしか。ノキデハタライテキマスと書け。
- 二 おなじよーな鳥が何處よりとんで來ますか。ムカフカラと書け。
- 三 汝等は此の鳥は何と思ふか。
- 四 ツバメと板書す。
- 五 何故に燕といふことを知りしか。
- 六 ヲハニツニワレテキマスと板書す。
- 七 燕の標本を提出して其形状、特徴、羽翼の色、食物、啼聲等を問答す。

- 八 更に燕の嘴と他鳥との嘴を比較せしむ。
- 九 クチバシハミジカクと板書す。
- 十 クチハフカクサケテキマスと板書す。
- 十一 黑板上に提出せる文字の読み方を練習せしむ。
- 十二 書籍につきて豫習せしむ。
- 十三 教師の範讀次に優等生より順次練習
- 十四 意義を話さしむ。
- 十五 書き方練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 ニハトリノチハナガクテキレイデス。と書け。
- 二 ツバメノクチバシハミジカククチハフカクサケテキマス。と書け。
- 三 ヌツテモラヒマシタ。と書け。

備考及注意

- 一 燕の標本を準備して置かんことを要す。
- 二 練習すべし言語……ナガク、ワレテキマス、ミジカク、フカク、サケテ、ソレデスカラ、コトガデキマス。
- 三 注意すべし假名遣……ヲ、ミジカク。

第三時

ツバメハより
カナイガリマスまで

目的指示

本日も燕の形状、習性等につきて教授せんとす。

豫備及教授

- 一 燕の尾は他の鳥と比較すれば如何。ナガクテワレテキマスと書け。
- 二 嘴は他の鳥に比して如何。ミジカクテフカクサケテキマスと書け。
- 三 何故に口が深く裂け居るか……ムシヲトルコトガデキマスヨと書け。
- 四 燕は如何なるものにて巢を造るか。

練習及應用

- 五 ドロヤワラナドと板書す。
 - 六 如何なる所に巢を造るか。
 - 七 イヘノノキと書け。
 - 八 此の燕はよく人に馴るゝ鳥なり。
 - 九 ヨクヒトニナレマスと板書す。
 - 十 それ故人も亦燕をかはいがります。
 - 十一 カハイガリマスと板書す。
 - 十二 黑板上に提出せし文子の讀み方を練習す。
 - 十三 書籍を開きて豫習せしむ。
 - 十四 優等生より順次に之を讀ましむ。
 - 十五 意義を話さしむ。
- 其 讀み方、話し方及書き方の練習

備考及注意

- 一 ツバメハドロヤワラナドデスヲコシラヘマス。と書け。
 - 二 ツバメハイヘノノキナドニスヲコシラヘマス。と書け。
イヌハ、ヨク、ヒトニナレマス。ヒトモ、マタ、イヌナカハイガリマス。
- 備考及注意
- 一 練習すべき言語……ヤ、ナド、コシラヘマス、ナレマス、カハイガリマス。
 - 二 注意すべき假名遣……イヘ、コシラヘ、カハイガリ。

第四時

コノトリハアタタカナヨリ
終リ
ま
て

目的指示

本日も昨日の續きの燕につきて教へん。

豫備及教授

- 一 燕は如何なるものにて如何なる處に巢を造るか。ドロヤワラナド
デ、イヘノノキナドニと書け。

- 二 燕はヨクヒトニナレマスと書け。
- 三 燕は四時共に我が國に居るか。
- 四 いつ頃來りていつ頃往くか。
- 五 それは何故なるか。汝等は知らざるべければ教授せん。
- 六 それは燕はあたたかなところが好きですから寒くなると暖地に行くなり。
- 七 アタタカナトコロガスキデスカラと板書す。
- 八 サムクナルトと書け。
- 九 暖かになると又還つて來ます。
- 十 アタタカナナルトと黑板に書す。
- 十一 カヘツテキマスと板書す。
- 十二 黑板上の文字の讀み方及書籍につきて豫習を命ず。
- 十三 優等生より順次に本日の處を讀ましむ。

十四 意義を話さしむ。

十五 讀み方・話し方及書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 サムクナルト、アタタカナトコロニイッテシマヒマス。ソシテ、アタタカニナルト、マタ、カヘツテキマス。

備考及注意

- 一 練習すべき言語……アタタカナトコロ、スキ、サムクナル、イッテシマヒ、カヘツテキマス。
- 二 注意すべき假名遣……イッテシマイマス、カヘツテキマス。

第五時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさん。

復習の方法

練習及應用

- 一 燕の尾は如何。其嘴は如何。
- 二 燕の巢は如何なる處に、……また如何なるものを以て造るか。
- 三 燕は如何なる處を好むか。
- 四 寒くなれば如何にするか。暖かになれば……。
- 五 一段落づつ兒童をして讀み方及話し方を復習せしむ。
- 六 全課を通じて讀ましめ又其大要を話さしむ。

一 文字文句ノ書取

一 ハノトリ、ハタライテ、オナジヨ一ナトリ、ムカフ。
 ハヤクトンデクル、ナガク、ワレテキマス、ミジカク、フカク。
 サケテキマス、スナコシラヘマス、ナレマス、カハイガリマス、スキ
 デスカラ。
 アタタカク、アタタカナ、アタタカニ サムクナルト、イッテシマヒ

マス、カヘッテキマスカ。

二 約文

イ 一ハノトリハノキデハタラキ、一ハノトリハムカフカラトン
 デキマス。
 ロ ツバメノチハ一ツニワレ、クチバシハミジカクテ、クチハフカ
 クサケテキマス。
 ハ イヘノノキナドニ、ドロヤワラナドデ、スナコシラヘマス。
 ニ ヨクヒトニナレルカラカハイガラレマス。
 ホ アタタカナトユロガスキデスカラ、サムクナルトイッテアタ
 タカニナルトマタカヘッテキマス。

第六時

の平假名とつらめあぬ
教 授

目的指示

平假名とつろめあぬの教授をなさん。

豫備及教授

- 一 トの字につきて復習をなし、平假名とを提出して其讀み方・書き方を授け及練習せしむ。
- 二 ツ・ロにつきて其の發音・讀み方及書き方につきて復習をなし、平假名を提出して其文字の構造・讀み方・書き方を授け相互の比較をなし且つ練習せしむ。
- 三 メ・ア・ヌの文字を一々提出して發音・讀み方及書き方の復習をなし、然る後平假名め・あ・ぬを一々に提出して其文字の構造・讀み方及書き方を授け、且つ相互の比較及練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 とつろめあぬの一字乃至六字を以て書き又はいひ得べき言語或は名稱等を擧げしむ。

- 二 左の文句を讀み又は書かしむ。
あめ(雨)・たぬき(狸)・つりばり(釣針)・とっくり(徳利)。
- 三 今まで何につきて習ひしか。「つばめ」と書け。
- 四 家の軒に何が居りしか。「とり」と書け。
- 五 燕の他鳥と異なる點は尾と何となりしか。「くちばし」と書け。
- 六 巢を造るには何を用ひしか。「どろ」と書け。

教授の目的

第五 ツバメトスズメ

内容上

燕と雀との偶話によりて他人の所有物を奪ふことの悪事たるを知らしめ、修身上の訓誡を與へんとするにあり。

形式上

片假名にて書き綴りたる文章を読み且つ解するの能を養ひ又平假名すゝいひてそよまを教授す。

時間ノ配當

- 第一時 第五課初行……………スマツテキマス。
- 第二時 ソノウチニ……………ハイツテキマシタ。
- 第三時 ソコデツバメハ……………トイヒマシタ。
- 第四時 シカシスズメハ……………キキマセンデシタ。
- 第五時 ツバメハタイソド……………フサイデシマヒマシタ。

教授案

- 第六時 スズメハスノナカ……………終。
- 第七時 全課の復習
- 第八時 すゝいひてそよまの教授

第一時

第五課初行よりスマツテキマシタまで

目的指示

本日より燕と雀とにつきて面白き話を教授せん。

豫備及教授

- 一 燕は如何なる處に巢を營めるか。如何なるものを以て。
- 二 雀は如何なる處に如何なるものを以て巢を造るか。
- 三 或る家の軒に燕の巢がありたり。
- 四 アルイヘノノキと板書す。

- 五 其巢を或る横着な雀が見つけたり。
- 六 アルオーチャクナスズメと板書す。
- 七 ミツケと書け。
- 八 ジブンノスと板書す。
- 九 黑板上に提出せる文字の読み方練習をなす。
- 十 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
- 十一 優等生より順次に読み方を練習せしむ。
- 十二 意義を話さしむ。
- 十三 話し方及書き方の練習を命ず。

練習及應用

- 一 アルイヘノソトニマリガオチテキマシタ。と書け。
- 二 ソノマリナオーチャクナドモガミツケマシタ。と書け。
- 三 ソシテジブンノモノニシテキマシタ。と書け。

四 コレハヨイデスカ。と書け。

備考及注意

- 一 雀につきて事物教授の復習をなすべし。
- 二 練習すべき言語：…アルイヘ、オーチャク、ミツケ、ジブンノ、スマヒ。
- 三 注意すべき假名遣：…イヘ、ジブン。

第二一時

ツノウチニヨリ
ハイツテキマシタまで

目的指示

本日は昨日の續きを教授せん。

豫備及教授

- 一 或る家の軒に何がありたりしか。ツバメノスと書け。
- 二 其巢を如何なるものが見つけたるか。オーチャクナスズメと書け。
- 三 横着な雀は其巢を如何にせしか。ジブンノスと書け。

- 四 其うち前の燕が歸り來りたり。
- 五 ソノウチニと書け。
- 六 燕が歸り來りて自分の巢を見ますと。
- 七 スヲミマスと書け。
- 八 其處に見たこともない雀がはいつてゐました。
- 九 ミタコトモナイと板書す。
- 十 燕は如何に思ひしならん。
- 十一 黑板上の文字の読み方を練習せしむ。
- 十二 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
- 十三 優等生より順次に読み方を練習せしむ。
- 十四 意義を話さしむ。
- 十五 書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 ソノウチニイヌガカヘツテキマシタ。と書け。
- 二 ソシテジブンノイヘナミマス。と書け。
- 三 ソコニミタコトモナイヒトガキマシタ。と書け。

備考及注意

- 一 練習すべき言語……ソノウチニ、カヘツテ、ソシテ、ソコニ、ミタコトモナイ、ハイッテ
- 二 注意すべき假名遣……カヘツテ。

第三時

ソコテツバメハヨリ
トイヒマシタまで

目的指示

燕は雀に向ひて如何なることをなせしかを教授せん。

豫備及教授

- 一 燕は歸つて來て如何にせしか。ジブンノスヲミマスと書け。
- 二 其巢の内にはいつて居るものは何か。……ミタコトモナイスズメ

と書け、

- 三 そこで燕は雀に向ひてかくいひました。
- 四 ソコデと書け。
- 五 これは私の巢です。退いてくださいといひました。
- 六 ノイテクダサイと板書す。
- 七 書籍を開き本日之處を豫習せしむ。
- 八 優等生より以下順次に読み方を練習せしむ。
- 九 意義を話さしむ。
- 十 書き方の練習を命ず。

練習及應用

コレハワタクシノデス。と書け。

コレハワタクシノバデス。ノイテクダサイ。と書け。

備考及注意

一 練習すべき言語……ソコデ、ワタクシノデス、ノイテクダサイ。

目的指示

雀は燕に何と答へしかにつきて教授せん。

豫備及教授

- 一 昨日の處の読み方を復習せよ。
- 二 大畧の説話をなせ。
- 三 燕は雀に向ひてかく云ひたるはよきか、然らば雀は燕に向ひて如何にすべきか。
- 四 しかしおーちやくな雀はさうはせずにかういった。
シカシと書く。
- 五 一えこれは私のすです。

第四時

シカシニスズメカヨリ
キキマセンアシタマテ

- 七 イーエと板書す。
- 八 右の如くいつてききませんでした。
- 九 キキマセンと板書す。
- 十 黑板上に提出せし文字の読み方練習をなせ。
- 十一 書籍につきて豫習をなさしむ。
- 十二 読み方。
- 十三 話し方。
- 十四 書き方。

練習及應用

- 一 コレハワタクシノデス。と書け。
 - 二 イーエコレハワタクシノデス。と書け。
 - 三 シカシズメハツバメノイッタコトヲキキマセンデシタ。と書け。
- 備考及注意

第五時

ツバメハタイサリ
フサイデシマロシタマテ

目的指示

燕は雀の無法を怒り如何なることをなせしかを教授せん

豫備及教授

- 一 昨日の處の読み方を復習せよ。
- 二 意義の大略を話せ。
- 三 雀はかゝる無法なることをいひしかば、燕は大層怒りて仲間を大勢呼んできました。
- 四 タイソーオコツテと板書す。
- 五 オホゼイと板書す。
- 六 その大勢の仲間て泥をくはへてきて巢の口を、塞いでしまいまし

たと板書す。

七 ドロヲクハヘテキテと板書す。

八 クチヲフサイデシマヒマシタと板書す。

九 黒板上に提出せし文字を讀め。

十 書籍につきて豫習

十一 教師の範讀及兒童の練習

十二 意義を話さしむ。

十三 書き方の練習

練習及應用

一 「ナカマヲオホゼイヨンデキマシタ」。

二 「ドロデスノクチヲフサイデシマヒマシタ」。

備考及注意

一 練習すべき言語オコッテ、ナカマ、オホゼイ、ミンナデ、クハヘテ、フサイデシマヒマシタ。

二 注意すべき假名遣……オホゼイ、クハヘテ、フサイデシマヒマシタ。

第六時

スズメハスノナカより
終り

目的指示

雀は如何にせしかを教へん。

豫備及教授

一 燕はたいそーおこつて如何にせしか、ナカマヲオホゼイヨンデキマシタと書け。

二 そして如何にせしか、ドロデスノクチヲフサイデシマヒマシタと書け。

三 巢の中の雀はどうしたてしよう。

四 タイソーサワギマシタと板書す。

五 しかしどうしても出ることが出来ませんでした。

- 六 ドウシテモと板書す。
- 七 デキマセンデシタと板書す。
- 八 黑板上に提出せし文字の読み方の練習せよ。
- 九 書籍につきて豫習せよ。
- 十 兒童をして順次之を讀ましむ。
- 十一 意義を話さしむ。
- 十二 書き方の練習をなす。

練習及應用

- 一 「スズメハカゴノナカデタイソーサワギマシタ」と書け。
- 二 「シカシドウシテモデルユトガデキマセンデシタ」と書け。

備考及注意

- 一 雀は終に如何に思ひしか。後悔先に立たざれば用をなさず。
- 二 悪しき行爲あれば悪しき報の來るべきことを訓誡すべし。

- 三 これは燕の話なり。人たるものはたとひ他人が己に對して惡事をなしたりとも、直に彼を苦しむるが如き行爲あるべからざることを訓誡すべし。
- 四 練習すべき言語……サワギマシタ、ドウシテモ、デキマセン。
- 五 注意すべき假名遣……サワギ、ドウシテモ。

第七時

全課の復習

目的指示

全課の復習をなさん。

復習の方法

- 一 數段に分ち各段につき読み方及話し方の復習をなす。
- 二 燕の巢を雀が如何にせしか。
- 三 燕か歸り來りて我家を見て如何にせしか。
- 四 雀は如何にせしか。
- 五 燕は雀の無法を怒りて如何なることをなせしか。

- 六 雀は如何になりしか。
- 七 全課の大意を話さしむ。

練習及應用

一 字句の書取

イヘノノキ、オーチャクナス、メ、ミツケ、ジブン、ミタユトモナイ、ワタクシ、ノイテ、イーエ、オホゼイノナカマ、オコッテ、ミンナデ、サワギマシタ、ドウシテモ。

二 約文

アルイヘノノキニアッタツバメノスナ、オーチャクナスズメハジブンノスニシマシタ。

ツバメガカヘッテキテミマスト、ミタユトモナイスズメガハイッテキマシタ。

ツバメハスズメニソレハワタクシノデス。ノイテクダサイトイヒ

マシタ、シカシスズメハキキマセンデシタ。

ツバメハオコッテナカマナオンデキテミンナデ、ソノスノクチナフサイドシマヒマシタ。スズメハサワギマシタガデルコトガデキマセンデシタ。

第八時

す・い・ひ・て・そ・よ・まの平假名を教へんとす。

目的指示

す・い・ひ・て・そ・よ・まの平假名を教へんとす。

豫備及教授

- 一 スにつきて其發音・讀み方及書き方の復習をなし、然る後平假名ずを提出して讀み方・書き方の教授及復習をなす。
- 二 イこれは如何なる字なりしか……誰々讀め石盤上に「イ」と書け。
- 三 然らば平假名にて「い」の字を教へん誰々讀め、書け。

- 四 ヒ何と読みしか、如何に書くべきか。平假名のひを教授せんこれを讀め、書け。
- 五 テ・ソこれは如何なる字なりしか、讀め、書け、これは何と読みしか、如何に書きしか。
- 六 平假名ので・そを提出して、其讀み方書き方教授及練習をなし。猶ほ相互の關係をも比較説明すべし。
- 七 ヨ・マの字につきて復習し以て其發音・讀み方及書き方を明瞭正確ならしむ。
- 八 ヨ・マの平假名を提出し、其讀み方書き方の教授及練習をなし、猶ほ「よ」「ま」の類似及相異の點を比較せしむ。

練習及應用

- 一 す・い・ひ・て・そ・よ・まの一字乃至六字を以ていひ又は書き現はし得べき言語及名稱を擧げしむ。

- 二 左の字句を讀ましめ又は書かしむ。

いす(椅子)・ひばち(火鉢)・てならひ(手習)・すずめ(雀)。
すずめが「のいてください」といひました。

第六 アメ

教授の目的

内容上 雨天の陰鬱なる有様を叙し、降雨につきての觀念を明ならしむ。

形式上 片假名にて綴れる文章を読み且つ解する能を養ひ又ケフ(キョー)ノフ(ノー)の綴方及平假名わねれるるを教授す。

時間の配當

- 第一時 初め……………オチテキマス。
- 第二時 ジローハイマ……………ヌレテキマス。
- 第三時 ツバメハアメニ……………終。
- 第四時 全課の復習
- 第五時 平假名わねれるるの教授

教授案

目的指示

本日よりは雨につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 此頃は毎日雨が降り……………今日より習ふ所は即ち雨のけしきなり。書籍につきて豫習せよ。
- 二 今汝等が豫習せし中にケフといふ字あり如何に読み得べきか。
- 三 今日「キョー」にあらずして「ケフ」なることを知らしめ殊に其読み方及書き方を教授す。
- 四 キノフとは如何に読み得べきか。
- 五 「昨日」は「キノ」にあらずして「キノフ」なることを知らしめ其読み方及び書き方を教授す。

第一時

初め
オチテキマスまで

六 教師範讀をなし優等生より順次に讀ましむ。

其意義の大體を約話せしむ。

七 アマダレとは如何なるものなるか。……ポチポチとは如何なることとなるか。

八 書き方を練習せしむ。

練習及應用

一 「ケフモアサカラガ コーヘイキマス」と書け。

二 「キノフモヲトトヒモガツコーヘイキマシタ」と書け。

三 「ヤネカラアマダレガポチポチ」と書け。

備考及注意

一 梅雨ノ時期には連日の雨天なること、及び雨は如何にして降下するか等の理由を簡単に説明せんことを要す。

二 練習すべし言語……ケフモアサカラ、キノフモヲトトヒモ、ヤネカラ、ポチポチ。

三 注意すべし假名遣……ヲトトヒ。

第二一時

シロイハイマヨリ
ヌレテキマスまで

目的指示

雨降りの景況につきて教授せん。

豫備及教授

一 昨日の處の讀み方を復習せしむ。

二 大畧の談話をなせ。

三 ケフ・キノフ・ヲトトヒと書け。

四 此處に子供が居るならんこの子は次郎なり。

五 シローと書け。

六 次郎は今窓を開けて外を見て居るなり。

七 マドヲアケと板書す。

八 此の如く三日も四日も雨が降る故、凡てのものが皆雨に濡れて居

るなり。

- 九 ミンナヌレテキマスと板書す。
- 十 黑板上に提出せし文字を讀め。
- 十一 書籍につきて豫習せしむ。
- 十二 優等生より順次に讀ましむ。
- 十三 意義を説話せしむ。教師範讀をなし、兒童をして練習せしむ。讀み方を練習せよ。

練習及應用

- 一 「マドナアケテソトナミテキルノハジローデス」と書け。
- 二 「クサモキモハナモミンナ」と書け。
- 三 「アタマモテモアシモミンナアメニヌレテキマス」と書け。

備考及注意

- 一 練習すべき言語……マドナアケテ、ソト、ヌレテ。

第三時

ツメハメニヨリ
終リマテ

目的指示

本日も昨日の繼きを教授せん。

豫備及教授

- 一 次郎は今如何になし居るか。ソトヲミテキマスと書け。
- 二 草も木も花も如何になり居るか。ヌレテキマスと書け。
- 三 向ふに飛翔せるは如何なる鳥か。
- 四 人が向ふから何をさして來るか。
- 五 カラカサヲサシテと板書す。
- 六 彼は次郎のおとうさんです。
- 七 オトウサンと板書す。
- 八 黑板上の文字の讀み方を練習す。

- 九 書籍につきて豫習せしむ。
- 十 優等生より順次に読み方をなさしむ。
- 十一 意義の大略を説話せしむ。
- 十二 書き方の練習を命ず。

練習及應用

- 一 「ツバメハソトチトンドキマス」と書け。
- 二 「ジロノオトウサンガムカフカラキマス」と書け。
- 三 「ヒトガムカフカラカサナサシテキマス」と書け。

備考及注意

- 一 練習すべき言語……ヌレテモ、カラカサ、アレハ、オトウサン。
- 二 注意すべき假名遣……ムカフ、オトウサン。

第四時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさん。

復習の方法

- 一 各児童をして一段落づつ読み方を復習せしむ。
- 二 讀みたる處の大意を話さしむ。
- 三 連続して流暢に讀ましむ。
- 四 雨が毎日降ることを話して見よ。
- 五 雨垂が如何になりしとありしか。
- 六 窓をあけて外を見て居るのは誰か。
- 七 雨に濡れて居るものを舉げよ。

練習及應用

一字句の書取

ケフノアサ、キノフ、オトトヒ、アマダレ、ヤネカラ、マドチアケテ、

二 約文

ソト、アメニヌレテキマス、ムカフカラ、カラカサ。
 ケフモ、アサカラ、アメガフツテキマス。アマダレガ、ヤネカラオチテ
 キマス。
 マドチアケテソトナミテキマス、ミンチアメニヌレテキマス。
 ムカフカラカラカサチサシテクルノハ、ジローノオトウサンデス。

第五時

わねれの
の 教 授

目的指示

平假名わねれるゐの教授をなさん。

豫備及教授

- 一 ワこれは如何なる字か……ネこの字は……レこれは。
- 二 平假名のわといふ字を教授せん。「わ提出読み方・書き方の教授及

練習をなす。

- 三 ねれの二字を提出し、「ねはわ」と如何なる處が相違せるか「れは
「わ」と如何なる相異なるかを比較し其読み方・書き方の教授及練
習をなす。
- 四 ル・キの片假名を提出し、其發音読み方及書き方の復習をなす。
- 五 るゐの文字を提出し、其読み方の教授及練習をなし又「と」「ゐ」と
の比較をなさしむ。

練習及應用

- 一 わねれるゐの中一字若くは五字を以ていひ現はし又は書き現は
し得べき言語及名稱を擧げよ。
- 二 左の字句を読み又は書かせよ。
それはわたくしのです。

あめ、わらやね、あさ、ひる、よる、はながぬれてゐます。

第七 コガハ

教授の目的

内容上 田舎に於ける小川の清く愛すべき有様を述べて、田舎生活の快樂を知らしめんとす。

形式上 片假名にて綴りたる文章及歌詞を讀み且つ解する能を養ひ、又平假名こにう、ふ、ち、をの教授をなす。

時間の配當

- 第一時 第七課初行……………一ボンアリマス。
- 第二時 カハニハキレイナ……………アソフコトガスキデス。
- 第三時 イヘノマヘチハ……………歌詞終。
- 第四時 全課の復習
- 第五時 こにう、ふ、ち、をの教授

教授案

第一時

第七課初行より
一ホンアリマヌまで

目的指示

本日より小川につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 此處に居る子供は右の手に如何なるものを持てるか左の手には如何なる用に供するものあるか。
- 二 此の小川の岸には何が生へて居るか。此の木は如何なる木か。
- 三 此處に居る魚は何といふ魚か。
- 四 今日はこの子供が己が家の前を流るゝ小川につきて話をなせる所なり。如何なることをいへるかを書籍につきて調べん。
- 五 書籍を開きて本日の處を豫習せしむ。
- 六 ワタクシ之を讀め如何なることか。
- 七 コガハノキシ之を讀め岸とは如何なる處をいふか。

- 八 優等生より順次に本を讀ましむ。
- 九 大體の意義を話さしむ。
- 十 教師範讀をなし兒童をして之を練習せしむ。
- 十一 書き方の練習を命ず。

練習及應用

- 一 ワタクシノイヘノマハニハヤナギノキガアリマス。と書け。
- 二 カハノキシニハクサガハエテキマス。キモアリマス。と書かしむ。

備考及注意

- 一、練習すべき言語……イヘノマヘ、コガハノキシ、ハエテ、ヤナギノキ
- 二、注意すべき假名遣……イヘノマヘ、コガハ、ハエテ

第三時

カハニハキレイナより
アソブコトガスキデヌまで

目的指示

前日の續きにつきて教授せん。

豫備及教授

- 一 子供の家の前には何がありしか。コガハガアリマスと書け。
- 二 小川の岸には何がはえて居るか。クサガハエテキマスヤナギノキモアリマスと書け。
- 三 子供は尙小川にはきれいな水が流れて居ます。と話せり。
- 四 キレイナミヅと板書す。
- 五 而してめだかが澤山ういて居ます。
- 六 メダカと書く。
- 七 ウイテキマスと書く。
- 八 わたくしは、めだかをすくって遊ぶことが好きです。と、か様に話しました。
- 九 スクツテアソブと書く。

讀方教及教授案

- 十 スキデスと書く。
- 十一 黑板上に提出せし文字の讀み方を練習せしむ。
- 十二 書籍につきて豫習せしむ。
- 十三 優等生より順次に讀ましむ。
- 十四 意義の大略を談話せしむ。
- 十五 書き方の練習を命ず。

練習及應用

- 一 カハニハキレイナミヅガナガレテキマス。と書け。
- 二 ソシテフネガタクサンウイテキマス。と書け。
- 三 ワタクシハフネニノツテアソブトガスキデス。と書け。

備考及注意

一、魚類等を捕へて池に畜ふが如きは通常の遊びなれとも濫に之を苦しめ又は無益の殺生をなすべからざることを訓誡せよ。

- 二、練習すべき言語……キレイナミツ、ナガレ、タクサン、ウイテ、スキ
- 三、注意すべき假名遣……ミツ

第三時

イヘンマヘチヌヨリ
歌詞終りまで

目的指示

本日は小川のことを歌に綴れるものを教授せん。

豫備及教授

- 一 小川の中には何がたくさんういて居ますかメダカガタクサンウイ
テキマスと書け。
- 二 繪を示して……此小川はながれてどこへいくのです。此の如く
めだかを浮せて田の側を通ほり、なかまの小川を一しよにあつめて
大川へいくのです
- 三 タノソバトホリと黒板上に提出し之は如何に讀むか、如何なる意

義か。

- 四 オホカハ之を讀め。
- 五 本日の所を書籍につきて練習せよ。
- 六 教師の範讀
- 七 歌詞の意義を問答して前半は子供の小川に對する問。後半は小川
の子供に對する答なるを知らしめ兒童をして其大畧を話さしむ。
- 八 書き方の練習を命ず。

練習及應用

- 一 ヨガハハナガレテドコヘイク。と書け。
- 二 ナカマアツメテオホカハへ。と書け。

備考及注意

- 一、注意すべき假名遣……ドコヘ、トホリ、オホカハへ

第四時

全課の復習

目的指示

全課の復習をなさん

復習の方法

- 一 數段に分ちて讀み方及話し方を練習すべし。
- 二 歌詞の部は流暢に達讀せしむるを主とし、其意義は大要に止め自己の言語にて話さしむべし。

練習及應用

一 字句の書取

ユガハ、イヘノマヘ、キシ、一ボンノヤナギノキ、キレイナミヅ、ナ
ガレル、タクサン、ウイテキル、スキ。

二 約文

ワタクシノイヘノマヘニハユガハガアリマス。

キレイナミヅノナカニメダカガウイテキマス。
ユドモハマダカチスクッタアソビマス。

第五時

このう・ふ・おを
の 教 授

目的指示

平假名こに・う・ふ・おをの教授をなさん。

豫備及教授

- 一 コ・ニの片假名を提出し其發音文字の讀み方及書き方につきて復習す
- 二 平假名こにを提出し讀み方・書き方の教授及練習をなし。且つこと
はとの文字の形體上の異同を知らしむ。
- 三 ウの字を提出して復習し平假名ウの讀み方・書き方を教授し及練習せしめ又らと對照して其異同を知らしむ。

四 フの片假名提出。これは何といふ字か。讀み方・書き方を復習し、平假名ふの讀み方書き方を練習せよ。

五 オ・ヲを提出して發音・書き方及使用法の相違等につきて復習す。

六 平假名お・をを提出して其讀み方・書き方を教授し且つ之を練習せしめ又おとをとの區別を明瞭ならしむ。

練習及應用

一 ここに、う・ふ・おをの中一字又は六字を以て書き或はいひ得べき事物の名稱又は言語を擧げしむ。

二 左の字句を讀ましめ又は書かしむ。
うを(魚)おほきなかはにふねがういてゐる。
こがは・おほかは。
いへのまへにこがはがあります。
めだかがういてゐます。

備考及注意

めだかをすくふことが出来ます。

一、家の前より以下の文は本課の内容を復習的に問答して課すべし

第八 タケノコ

教授の目的

内容上 筍につきて庶物教授をなし其成長の速なるを知らしむ。

形式上 片假名にて綴りたる文章を読み又理解するの能を養ひ、平假名け・せみ・え・ゑにつきて教授す。

時間の配當

- 第一時 第八課初行……………ハナシテキマス
- 第二時 ヲタローブンキチサン……………シテミマセウ
- 第三時 プンキチアーキミハ……………ヒクイヨードス
- 第四時 プンキチソンナラキミハ……………終
- 第五時 全課の復習
- 第六時 け・せ・み・え・ゑにつきての教授

讀方教法及教案

教授案

第一時

第八課初行より
ハナシテキマスまで

目的指示

本日より筍につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 汝等筍とふものを知れるか。如何なる處より生ずるか。
- 二 如何なる形のものか。如何なるものにて被包せらるゝか。
- 三 如何なる功用あるか。成長すれば如何なるものとなるか。
- 四 竹が澤山叢生せる處を何といふか。
- 五 タケヤブと板書す。
- 六 此處に二人の男子あり。一人を文吉といひ、他の一人を小太郎といふ。

- 七 コタローブンキチと書け。
- 八 この二人が竹藪の傍にて話しをなして居る處なり。
- 九 黑板上に提出せし文字の読み方を練習せよ。
- 十 書籍につきて本日の處を豫習すべし。
- 十一 優等生を指名して本日の處を讀ましむ。
- 十二 読み方を練習せしむ。
- 十三 意義の話をなさしむ。
- 十四 書き方の練習を命ず。

練習及應用

- 一 キガタクサンハエテキルトコロナハヤシトイヒマス。と書け。
- 二 タケヤプトハタケノハエテキルトコロデス。と書け。
- 三 コタローブンキチトハオトモダチデス。と書け。

備考及注意

- 一、 筍の實物又は模型を準備せんことを要す。
- 二、 竹の根の有様及び筍との關係を大畧説話すべし。
- 三、 練習すべき言語：ハエテキルトコロ、タケヤブ、ハナシヲシテ
- 四、 注意すべき假名遣：ハエテ、イヒマス

第二一時

コタローブンキチサンより
シテミマセウまで

目的指示

本日は小太郎と文吉との話につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 竹藪とは如何なる處をいふかタケガタクサンハエテキルトコロと書け。
- 二 小太郎と文吉とが竹藪の傍にて何をして居ますかハナシヲシテと書け。
- 三 小太郎は文吉に向ひて、文吉さんこの筍は大層のびましたね。

- 四 ブンキチサンと書け。
- 五 ノビマシタネと板書す。
- 六 筍と丈競をしてみませうといひたり。
- 七 セイクラベと板書す。
- 八 本日の處を復演せよ。
- 九 黑板上の文字の読み方及練習をなさしむ。
- 十 優等生より順次に読み方を練習せしむ。
- 十一 意義を説話せしむ。
- 十二 書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 ブンキチサンアナタハタイソーオホクナリマシタネ。と書け。
- 二 ワタクシトセイクラベナシテミマセウ。と書け。

備考及注意

一、練習すべき言語……タイソト、ノビマシタ、セイクラベ

第三時

ブンキチアキミハヨリ
ヒクイヨリテスまで

目的指示

本日も小太郎と文吉との談話の續きを教へん。

豫備及教授

- 一 昨日の處の読み方を復習せしむ。
- 二 大體の意義を話さしむ。
- 三 本日は小太郎と文吉とが筍と丈競をすることが書いてある所を開きて豫習せよ。
- 四 優等生を指名して讀ましむ。
- 五 読み方の練習をなさしむ。
- 六 小太郎が筍と丈競をなしたれば何れが高かりしか。

- 七 文吉と筈とは何れが低かりしか。
- 八 大意を話さしむ。
- 九 書き方の練習

練習及應用

- 一 キミトボクトハチヨードオナジタカサデス。と書け。
- 二 ボクハニイサンヨリニスンホドヒクイデス。と書け。

備考及注意

- 一、練習すべき言語……チョード、オナジタカサ、ニスンホド、ヒクイヨーデス
- 二、注意すべき假名遣……オナジ

第四時

ア
ン
キ
チ
ソ
ン
ナ
ラ
キ
ミ
ハ
ヨ
リ
マ
マ
テ

目的指示

本日は昨日の續きを教授せん。

豫備及教授

- 一 小太郎が筈と丈競をなしたるに文吉は何といひしか。チョードオナジタカサと書け。
- 二 文吉が筈と丈競をなしたるに小太郎は何といひしか。ニスンホドヒクイヨーデスと書け。
- 三 小太郎は筈と同じ高さにて、文吉が筈より二寸程低き時は、小太郎と文吉とは何れが高きか。
- 四 文吉は小太郎に然らば君は僕より二寸程丈が高いのですといひたり。
- 五 ソンナラと書け。
- 六 キミハボクヨリと書く。
- 七 小太郎は文吉に向ひ、文吉さん筈は速くのびますから、今に僕等よりずつと高くなりませうといひたり。

- 八 ズットタカイと板書す。
- 九 今迄の處を復演せしむ。
- 十 黑板上に提出せし文字の讀み方を練習せしむ。
- 十一 書籍につきて豫習せしむ。
- 十二 優等生より順次に讀ましむ。
- 十三 教師の範讀及兒童の練習。
- 十四 意義を話さしむ。
- 十五 書き方の練習を命ず。

練習及應用

- 一 キミハボクヨリセイガタカイヨードス。と書け。
- 二 ニーサンハボクヨリズットタカイデス。と書け。

備考及注意

- 一、練習すべき言語……ソナナラ、ボクヨリ、ハヤク、ノヒマス、ズット

二、注意すべき假名遣……ズット

第五時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさん

復習の方法

- 一 小太郎は文吉に如何なることをなさんといひしか。
- 二 小太郎の丈と箭の高さとは如何。
- 三 文吉の丈と箭とは如何。
- 四 小太郎の丈は文吉とは如何。
- 五 全課を通じて達讀せしむ。

練習及應用

- 一 字句の書き取

ハエテキルトコロ、タケヤブ、ユタロー、ブンキチ、タケ、ジロー、ハ
ナシ、ノビマシタ、セイクラベ、キミ、ボク、チヨード、ヒクイ、タカイ、
ボクラ、ズット。

二 約文

タケヤブハタケガタクサンハエテキルトコロデス。
ユタローハブンキチニタケノコトセイクラベナシテミマセウトイ
ヒマシタ。
ユタローハタケノコトチヨードオナジタカサデス。ブンキチハ二
スンホドヒクイヨードス。
タケノユハイマニボクラヨリズットタカクナリマセウ。

第六時

ひせみえゑの
教授

目的指示

平假名け・せ・み・えゑの教授をなさん。

豫備及教授

- 一 小太郎は文吉に筈とどーしてみようといひたりしか。
- 二 平假名にてたけのことせいくらべをしてみませうと書け。但し平假名の未だ知らざる處は片假名にて書け。
- 三 平假名けの字を提出して、其読み方書き方及運筆の順序を教授し及練習しむ。
- 四 せの平假名を提出して其読み方書き方運筆順序を教へ且つ練習せしむ。
- 五 平假名みの書き方及運筆順序を教授し練習せしむ。
- 六 前の文章中片假名を平假名に訂正せしめ、読み方書き方の練習をなさしむ。
- 七 竹藪とは如何なる處をいふか。

- 八 平假名にてなげがはえてゐますと書け。但し未知文字は片假名にて書け。
- 九 えの平假名の書き方及運筆順序を教へ、且つ練習せしめ並に前の片假名を平假名に訂正せしむ。
- 十 平假名にてまつをりゑてゐますと書け。但し注意同上
- 十一 平假名の書き方及其運筆順序を授け、且つ片假名エを平假名に訂正せしむ。

練習及應用

- 一 け・せ・み・え・ゑの中一字乃至五字を以て書くことを得べき言語を擧げしむ。
- 二 左の字句を讀ましめ又は書かしむ。
かみのけ・せみ・まみ・せんせい。
えらいひとのゑ・せんせい・せみのゑをかいってください。

備考及注意

一、「え」と「ゑ」との發音の區別を成るべく明瞭ならしむべし。

第九 カシノキトタケ

教授の目的

内容上 檜と竹との偶話を教授して、慢心は自己を毀損するの基なることを知らしむるにあり。

形式上

片假名にて綴りたる文章を読み且つ解するの能を養ひ、又ユフ(ユ)の假名遣ひ及平假名も・ゆ・む・つを授け並に平假名五十音の練習をなさしむ。

時間の配當

- 第一時 第九課初行……………ドツチヘモマガルネ
- 第二時 ボクナドハ……………キイテキマシタ
- 第三時 ソノヒノユフガタ……………トホリニナツテキマシタ
- 第四時 カシノキハゴジジョーニ……………ナツテシマヒマシタ
- 第五時 全課の復習
- 第六時 も・ゆ・む・つの教授

第七時 平假名五十音の練習

教授案

第一時

第九課初行より
マガルネまで

目的指示

本日よりは檜と竹とにつきて面白き話あり之を教授せん。

豫備及教授

- 一 汝等檜を見たることあらざるか。檜の葉は如何なる形をなすか。
- 二 檜の木は如何なる用に供せらるゝか。檜の木にて作れるものを知れりや。(檜は喬木なること其質木材中にて最も堅牢なること等を教授す)
- 三 竹は汝等既に知れり。檜等の木と如何なる點が相違せるか。(竹は丈の割合に周圍の細きこと中空にして節あること等を教授す)

- 四 櫛が竹を罵りたることを書け。…書籍につきて調べよ。
- 五 優等生より順次に本日之處を讀ましむ。
- 六 教師の範讀、兒童の練習。
- 七 櫛は竹に向ひて丈は高けれども如何なることが缺點なりといひしか。
- 八 風が吹くと如何になるべきか。
- 九 右の答を總括して本日之處を話さしむ。
- 十 書き方の練習

練習及應用

- 一 セイハタカイガカラダガヨワイカラグンジンニハナレマセン。と書け。
- 二 カゼガフクト、ドツチヘモマガル。と書け。

備考及注意

- 一 櫛及竹の標本を準備し置き、教授の際之を提出して實物の觀念を明ならしむべし。
- 二 練習すべき言語…セイハタカイガ、カラダ、ドツチヘモ、マガル
- 三 注意すべき假名遣…イヒマシタ、ドツチヘモ

第二一時

ホクナドハヨリ
キイテキマシタまで

目的指示

昨日の續きの櫛が竹を罵り自慢した話を教へん。

豫備及教授

- 一 書籍につきて昨日の處の讀み方を復習せしむ。
- 二 大體の意義を談話せしむ。
- 三 左の字句を書き取らしむ。
セイハタカイガカラダガホソクテドツチヘモマガル
- 四 櫛は次いでいふには僕等は身體がじよーぶてかたくてつよくて風

が吹いてもびくともせんといひました。

- 五 ジョーブと板書す………(読み方及意義説明)
- 六 カラダと板書す………(読み方及意義説明)
- 七 ツヨクと板書す………(読み方及意義説明)
- 八 此の如くいつて自慢をしました。
- 九 ジマンと書け(読み方及意義説明)
- 十 されども竹はだまつて聞いて居ました。
- 十一 ダマツテと板書す。
- 十二 黒板上に提出せし文字の読み方を練習せしむ。
- 十三 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
- 十四 優等生より順次に読み方を練習せしむ。
- 十五 本日の處の意義を説明せしむ。
- 十六 話し方及書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 ポクハカラダガジョーブダカラグンジンニナレルと書け。
- 二 ニホンノヘイタイハツヨイカラタマガキテモビクトモセンと書け。
- 三 ジブノジマンナスルノハヨクアリマセンと書け。
- 四 ヒトガジマンナシテモダマツテキイテキマシタと書け。

備考及注意

- 一 練習すべき言語……カラダガジョーブ、ツヨク、ビクトモセン、ジマン、ダマツテ

第三時

ソノヒノユフガタヨリ
トホリニナツテキマシタまで

目的指示

本日は自慢したる極が如何なることに遭遇せしかにつきて教へん。
豫備及教授

- 一 書籍につきて昨日の處の読み方を復習せよ。

案授教及法教方讀

- 二 大體の意義を話せ。
- 三 左の字句を書き取れ。
カシノキハカゼガファイテモビクトモセントジマンヲシマシタ
- 四 其日の夕方に至ると風が大層強く吹き出しました。
- 五 ユーガタと書け。
- 六 ユフガタと書くをよしとす。之を訂正して其読み方書き方を教ふべし。
- 七 ツヨクと板書す。
- 八 然るに竹は大人しく風の吹く通りになつて居ました。
- 九 オトナシクと板書す。
- 十 フクトホリと板書す。
- 十一 黑板上の文字の読み方及書籍につきての豫習
- 十二 優等生以下順次に読み方を練習す。

- 十三 本日の處の意義を説話せしむ。
- 十四 書き方の練習

練習及應用

- 一 ソノヒノユフガタカゼガフキダシマシタ。と書け。
- 二 オトナシクニサンノイフトホリニナツテキマシタ。と書け。

備考及注意

- 一 練習すべき言語……ユフガタ、ツヨク、フキダシマシタ、オトナシク、トホリニナツテキマシタ
- 二 注意すべき假名遣……トホリ

第四時

カシノキハカゼガファイテモビクトモセントジマンヲシマシタ

目的指示

竹は大人しく風に従ひたれども櫛は如何にせしか。其結果如何になり

しかにつきて本日は教授せん。

豫備及教授

- 一 其日の夕方天氣がどうなりしか。……カゼガツヨクフキダシマシタと書け。
- 二 竹は如何にして居たりしか。……オトナシクカゼノフクトホリニナツテキマシタと書け。
- 三 然るに櫛は強情に風に向いて意張つて居ました。
- 四 ゴージョーと板書す。……(讀方及意義説明)
- 五 イバツテキマシタと板書す。
- 六 すると風が怒りてひどい音をさせて、とーく櫛の木を折つてしまひました。
- 七 スルトと書け。
- 八 オコツテと書け。

- 九 トーと板書す。
- 十 黑板上に書き出せる文字の讀み方を練習せしむ。
- 十一 書籍を開きて本日の處を豫習せしむ。
- 十二 優等生より順次に讀み方を練習せしむ。
- 十三 本日の處の意義を説話せしむ。
- 十四 話し方及書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 カシノキハゴージョーニイバツテキマシタと書け。
- 二 カシノキハトーとタナレテシマヒマシタと書け。

備考及注意

- 一、練習すべき言語……ゴージョー、イバツテ、オコツテ、ヒドイオトヲサセ、トー、ラツテシマフ
- 二、注意すべき假名遣……ラツテ

第五時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさん。

復習の方法

- 一 檜は如何なることをいひて竹を罵りしか。
- 二 檜は自分のことを如何に自慢したか。
- 三 竹は檜の自慢を聞きて如何にせしか。
- 四 檜の行爲につきて批評せよ。
- 五 竹の行爲につきて批評せよ。
- 六 強き風のために竹は何故に折れざりしか又檜は何故に折れたるか。
- 七 汝は此の檜と竹と何れの行爲を好むか。
- 八 各段落づつ兒童をして読み方・話し方を復習せしむ。

練習及應用

一 字句の書取

セイハタカイ、ナカガカラ、ドツチヘモマガル、ボクナド、ジョーブ
 ナカラダ、カタクテツヨイ、ビクトモセン、ジマン、ダマツテキク、
 ユフガタ、オトナシク、……ノトホリニナツテキタ、ゴージョー、
 イバツテキル、タイソーオコッタ、トートー

二 約文

キミハセイハタカイガカラダガホソクテカゼガフクトマガル。ボ
 クハカラダガジョーブデカゼガフイテモビクトモセン。
 ソノヒノユフガタツヨイカゼガフキダシマシタ。タケハオトナシ
 クシテキマシタガ、カシノキハゴージョーニイバツテキマシタカラ、
 カゼガオコツテトートーオツテシマヒマシタ。

備考及注意

- 一 檜及竹の行爲につきて各兒童をして批判せしむ。
- 二 人を罵り自慢をなし強情に威張るものは、この檜の如く人に忌み嫌はるゝことを訓誡すべし。
- 三 竹の如く常に人に逆はず従順なるものは人に愛せらるべきことを訓誡せよ。

第六時

も・ゆ・む・つ
の 教 授

目的指示

も・ゆ・む・つ の平假名につきて教授をなすべし。

豫備及教授

- 一 檜は竹に向いて風が吹けば如何になると罵りしか。
- 二 どつちへもまがるねと平假名にて書かしむ。但し未知の文字は片假名にて書かしむべし。
- 三 捉音つ の書き方及其運筆順序を教授し且つ練習せしむ。
- 四 もの書き方及其運筆順序を教へ及練習せしむ。

- 五 前文中の片假名を平假名に改めしむ。
- 六 其日の夕方如何なることが起りしか。
- 七 ゆふがなかせがふさだしましたと平假名にて、未だ知らざる文字は片假名にて書かしむ。
- 八 ゆの字の読み方・書き方及其運筆順序を授け、且つ練習せしめ前文の片假名を平假名に改めしむ。
- 九 強い風が吹きし時檜は如何にせしか。
- 十 かせにむいていばつてゐましたと平假名にて未知の文字は片假名にて書け。
- 十一 むの字の読み方及書き方を教授し、且つ練習せしめ併せて前文中の片假名を平假名に改めしむ。

練習及應用

- 一 も・ゆ・む・つ の中一字乃至四字を以て書き又はいひ現はし得べき事

物の名稱及言語を擧げしむ。

- 一 左の字句を讀み又は書かしむ。
- ももたるゝがゆみをもつ。
- こつちへむけ。
- ももが六つ。
- むかふにみゆるはかしのきです。

第七時

平假名五十音の練習

目的指示

本日は平假名にて五十音及濁音・半濁音の總練習をなさしむ。

豫備及教授

平假名五十音の練習方法は第一卷に於ける片假名五十音練習の法と殆ど同一なるが故に此處には述べず。教授者は宜しく卷の一を

参照して適當の方法を採るべし。

備考及注意

- 一 本課の教授及練習は別に一定時間を限り難し。教授者は兒童の學力及び其進歩の程度を計りて適當に配當せんことを要す。
- 二 片假名五十音圖教授の時に於て述べたる如く、五十音は圖音の基本なるが故に反覆練習して充分に熟達せしむべし。

第十 うめのみ

教授の目的

内容上 梅の果實に對する庶物觀念を興へ、兼ねて理科的思想を涵養するにあり。

形式上 平假名にて書き現はされたる文字・文章を読み、且つ解し得るの能を養ひ且つ

言語練習をなさしむ。

時間の配當

第一時 初……………すこしあまくなります。

第二時 みなさんあをいうちには……………びよーきになります。

第三時 うめのみの中には……………うめのきはえてきます。

第四時 うめのみをしほにつけて……………終。

第五時 全課の復習

教授案

第一時 初 すこしあまくなりますまで

目的指示

今日よりは梅の實につきて教授せん

豫備及教授

- 一 此處に出て居るのは何か。
- 二 うめのみと平假名にて書き得るか。
- 三 梅の實は最初は如何なる色をなせるか。
- 四 あをくると書け平假名にて。
- 五 最初青かりし梅の實が漸々日を経るに従ひて如何に變色するか。
- 六 きいろくなりますと平假名にて書け。
- 七 梅の實の青き時には如何なる味を有するか。
- 八 あぢと平假名にて書け。
- 九 漸々黄色を呈するに至らば其味は如何に變ずるか。
- 十 あまくなりますと平假名にて書け。

- 士 今までの處を復演せしむ。
- 三 兒童に書かしめ及黑板上に提出せし字句を讀ましむ。
- 三 全體に豫習を命じ然る後優等生數名に讀ましむ。
- 古 教師範讀をなして讀み方を練習せしむ。
- 五 話し方及書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 これはうめのみですと書け。
- 二 はじめにはあをくであとにはきいろくなります。と書け。
- 三 きいろくなるとあぢがあまくなります。と書け。

備考及注意

- 一 梅の果實の實物を提出して仔細に觀察せしめんことを要す。
- 二 注意すべき假名遣……はじめ、あをく、あぢ
- 三 練習すべき言語……はじめには、あぢが、すこしあま

第二二時

みなさんあをいうちにはより
びいろくなりますか

目的指示

本日は昨日の續きを教授せん。

豫備及教授

- 一 繪畫を視察せしむ。
- 二 梅の實は最初は如何なる色をなせるか。あをくくと書け。
- 三 漸々日を経るに従ひて如何に變色するか。きいろくと書け。
- 四 梅の實の青き中は如何なる味か。黄ろくなりし後は、すこしあまくと書け。
- 五 梅の實の青き中は食し得らるか。
- 六 たべてはいけませんと書かしむ。
- 七 何故に食し得られざるか。若し食せば如何。
- 八 びいろくなりますとは如何に書き得べきか。

- 九 今までの處を復演せよ。
- 十 黑板上に書き出せる字句を讀ましむ。
- 十一 書籍につきて豫習を命ず。
- 十二 優等生をして讀ましめ、後教師範讀をなす。
- 十三 話し方及書き方練習。

練習及應用

- 一 梅の實の熟せざる中に食し得らるべきか。若し食する時は如何。
- 二 あをいうちにうめのみをたべるとびよーきになります。と書け。
- 三 梅の實が如何になれば食し得べきか。
- 四 きいろくになるとたべられます。と書け。

備考及注意

- 一 前日の處の豫備的復習をなす時には、其事實のみの復習を完全になし得たりとて満足すべからず、必ず形式上の言語及文字の復習をもなさんことを要す。

- 二 本日の處のたへてはいけません。びよーきになります等の字句は、兒童に發問して其答を得ると共に或は兒童に書かしめ、或は教師自ら黑板上に提出して兒童をして讀ましめんことを要す。
- 三 練習すべき言語……ミナサン、タベテハイケマセン

第三時

うめのみのなかにはより
うめのきがはえてきますまで

目的指示

今日は昨日の續きの梅の實の内にある核につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 梅の實の青き中に食するは可なりや否や。たへてはいけませんと書け。
- 二 何故に食することは不可なるか。びよーきになりますと書け。
- 三 梅の實の内には如何なるものがあるか。また其れを何といふか。
- 四 かいいたねと書き得らるか。

- 五 汝等は其核を如何にせるか。若し土の中に埋めおくときには如何なるか。
- 六 うめのきがはへてきまますの読み方。
- 七 今までの處を復演せしむ。
- 八 黑板上に書き出せる字句を讀ましむ。
- 九 書籍につきて豫習をなさしむ。
- 十 教師範讀をなし、兒童をして讀み方を練習せしむ。
- 十一 話し方及書き方の練習。

練習及應用

- 一 梅の實の内には如何なるものがありしか。
- 二 かたいたねがあります。と書け。
- 三 汝等は其種を如何にするか。
- 四 つちのなかにうづめます。と書け。

備考及注意

- 一 注意すべき假名遣……うづめる、はえる
- 二 練習すべき言語……かたいたね、うづめておく、はえてくる

第四時

うめのみをしほにつけてより
終

目的指示

今日は梅の實は如何にして食するかといふことにつきて教授せん。

豫備及教授

- 一 梅の實の内には如何なるものがありしか。かたいたねがありますと書け。
- 二 其核を土中に埋めて置くと如何になるか。うめのきがはえてきまますと書け。

- 三 通常梅の實は如何にして食するか。
- 四 うめぼしは如何にして製するか。汝等之を知るか。之より梅干の製法を教へん。
- 五 うめぼしと書き得るか。しほにつけると書き得らるか。
- 六 うめぼしの色を赤くするには何を入るか。
- 七 汝等は紫蘇の葉を見たることなきか。如何なるものか。
- 八 しそのはと書け。
- 九 いろがあかくなりますと書き出して之を讀ましむ。
- 十 それを乾すと皆さんのたべるうめぼしができます。
- 十一 今までの處を復演せよ。
- 十二 黑板上に提出せし字句を讀ましむ。
- 十三 書籍につきて豫習せしむ。
- 十四 教師の範讀及讀み方の練習

十五 話し方及書き方を練習せしむ。

練習及應用

- 一 うめのみをしほにつけます。と書け。
- 二 しそのはをいれてあかくします。と書かしむ。
- 三 それをほすとうめぼしができます。と書け。

備考及注意

- 一 注意すべき假名遣……しほ
- 二 練習すべき言語……しほにつける、あかく、みなさんのたべる

第五時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさん。

復習の方法

- 一 梅の實は、初めは如何なる色をなし漸々如何なる色に變ずるか。
- 二 其味は青き中には如何。黄ろくなれば如何。
- 三 青き中には何故に梅の實を食すべからざるか。
- 四 梅の實の内には如何なるものあるか。
- 五 梅の核を土の中に埋め置く時は如何になるか。
- 六 梅の實は如何にして食するか。
- 七 汝等の食する梅干は如何にせしものか。
- 八 讀み方・話し方及書き方練習。

練習及應用

一 字句の書取

あをいうめのみ、しろいうめのはな、あかいうめほし、うめのたね
はかたい。

二 約文

うめのみはきいろくなると、あぢがすこしあまくなります。
あをいうちにたべると、びよーきになります。
うめのたねをつちのなかにうづめておくと、うめのきがはえます。
うめのみをしほにつけてほすと、うめほしができます。

三 全課の讀み方及話し方復習

第十一 ホタル

教授の目的

内容上 螢に關する庶物觀念を附與し兼ねて理科的思想を涵養せんとするにあり。

形式上 片假名を以て書き綴りたる文字及文章を讀み且つ解し得るの能を養ひ、併せて言語練習をなすにあり。

時間の配當

- 第一時 初より……………ホー、ホー、ホタルコイ
- 第二時 ヲドモガ、ユフガタ……………デテミマシタ
- 第三時 スルト、ホタルガ……………キエタリシテ、トンデキマシタ
- 第四時 オハナ「オカアサン……………ゴザイマスカ」
- 第五時 オカアサン「オシリニ……………ミセテアゲマセウ」
- 第六時 オカアサンハ……………終り
- 第七時 全課の復習。

教授案

第一時

初
ホーホーホタルコイまで

目的指示

今日よりは螢につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 夏の夕に河邊等に奇麗な光を放つて飛ぶ虫あり。何と云ふか。
- 二 汝等は螢を捕へて見たることあるか。如何にして捕ふるか。
- 三 螢を捕ふる時には汝等は如何なる歌をふたうか。
- 四 書籍につきて螢の歌の豫習を命ず。
- 五 優等生數名をして讀ましむ。
- 六 教師範讀をなし。兒童をして讀み方の練習をなさしむ。
- 七 歌の意味の大畧を話さしむ。

八 話し方及書き方の練習を命ず。
練習及應用

- 一 ホタルコイ。と書け。
- 二 アツチノミヅハニガイ。と書け。
- 三 コツチノミヅハアマイヅ。と書け。

備考及注意

- 一 ホタルを能く世人は誤りてホツタル或はホツタロといへり。此の如き方言又は訛言は注意して矯正せんことを要す。
- 二 注意すべき假名遣……ミヅ
- 三 練習すべき言語……アツチ、ニガイ、コツチ、アマイ、

第二一時

ユドモガユフカタヨリ
アテミマシタマて

目的指示

本日は昨日の續きを教授せん。

豫備及教授

- 一 昨日は如何なるものにつきて習ひしか。ホタルと書け。
- 二 螢はいつ頃出づるか。如何なる處に居るか。何時頃ひかるか。
- 三 螢を呼ぶ歌を唱へしむ。
- 四 ホタルコイと書け。ニガイミヅ・アマイミヅと書け。
- 五 汝等も聞くならん子供が此の如き歌をうたひて夕方に家の前を通ることあらん。
- 六 ユフガタと板書して讀ましむ。
- 七 オモテと書き之を讀ましめ其意義を説明す。
- 八 オカアサンと書け。
- 九 黑板上に提出せし字句の讀み方練習
- 十 書籍につきて豫習せしむ。
- 十一 教師一度範讀をなす。

- 三 意味を話さしむ。
- 三 優等生より順次に読み方を練習せしむ。
- 四 書き方の練習

習習及應用

- 一 ヲドモガユフガタトホリマシタと書け。
- 二 ヲドモガユフカタニトホリマシタと書け。
- 三 オカアサントチモテニデテミマシタと書け。

備考及注意

- 一、注意すべき假名遣……ユフガタ、カウイフ、トホリ
- 二、練習すべき言語……カウイフウタ、ウタッテ、デテミマシタ

第三時

スルトホタルガより
キエタリシテトナキマシタまで

目的指示

本日はゆふかた螢の光りを放ちて飛ぶ有様につきて教へん。

豫備及教授

- 一 子供が何時頃ほたるの歌をうたつて通りしか。ユフガタと書け。
- 二 何處を通行せしかオモテと書け。
- 三 おはなは誰と共に表へ出て見たりしか。オカアサンと書け。
- 四 お花が母と共に表へ出て見ると螢が一びき飛んで居ました。
- 五 一ピキトンデキマシタと黑板に提出し其読み方を教授す。
- 六 そのうちに螢が二ひき三びきとだんだん寄って來たれり。
- 七 ダンダンヨツテキマシタと黑板に提出し、読み方を教授す。
- 八 汝等は夜間螢が飛ぶのを見たることあるか。如何なる有様か。
- 九 然り、暗い中を光ったり消えたりして飛ぶなり。
- 十 ヒカツタリ・キエタリと書け。
- 十一 兒童をして黑板上に書き出せる文字を讀ましむ。

- 三 書籍につきて豫習せしむ。
- 三 教師の範讀と兒童讀み方練習
- 四 本日の處の意味を話さしむ。
- 五 書き方の練習

練習及應用

- 一 ホタルガダンダンヨツテキマシタと書け。
- 二 クライナカチトンデキマシタと書け。
- 三 スルト、ソノウチニ、ダンダン、ヒカッターキエタリ、ソシテ等の言語を用ひて種々のことをいはしめ又は綴らしむ。

第四時

オハナオカアサンより
ゴザイマスカまで

目的指示

本日は昨日の續きのお花が母と話をすることにつきて教へん。

豫備及教授

- 一 おはなが母と共に居ると螢が何匹飛んで居たか。一ピキトン
デキマシタと書かしむ。
- 二 其中に多くの螢が如何にせしか。ニヒキ三ピキトダンダンヨツテ
キマシタと書け。
- 三 暗き中を如何なる有様をして飛んで居たるか。ヒカッターキエタ
リと書け。
- 四 螢が暗き中を或は光つたり或は消えたりして飛ぶ有様は實に奇麗
です。
- 五 おはなは之を見ておかあさんに如何に話せしか。書籍を見よ。
- 六 全體を豫習せしめ、然る後教師一度範讀をなす。
- 七 全體の意味を話さしむ。
- 八 優等生より劣等生に及ぼして讀み方、話し方を練習せしむ。

九 書き方を練習せしむ。

練習及應用

- 一 キレイデゴザイマス。と書け。(平假名に改め)
- 二 オホシサマノヨードゴザイマス。と書け。(平假名に改め)
- 三 アンナニドコガヒカルノデスカ。と書け。
- 四 キレイ、チョード、ドユカ、アンナニ等の言語を用ひて種々のことをいはしめ又は綴らしむ。

第五時

オカアサンオシリニヨリ
ミセテアゲマセウまで

目的指示

本日は母の答へにつきて教へん。

豫備及教授

- 一 お花は母に向ひ恰も何の如くあるといひしか。 **チョードオホシサ**

マノヨードと書け。

- 二 お花は母に更に如何なることを尋ねしか。 **ドコガアンナニヒカル**と書け。
- 三 今日母がお花に何といつて答へしか。之を讀め。
- 四 直ちに書籍につきて豫習を命ず。
- 五 優等生一二人に讀ましむ。
- 六 母はお花に如何なることを答へしか。其大體を話さしむ。
- 七 教師範讀をなし讀み方を練習す。
- 八 話し方及書き方を練習せしむ。

練習及應用

- 一 シロイトコロと書け。
- 二 ソコガヒカルノデス。と書け。(平假名に改め)
- 三 ミセテアゲマセウ。と書け。(平假名に改め)

- 四 オシリノシロイトコロガヒカルノデス。と書くべし。
- 五 ……トコロ、ソコガ、ミセテアゲマセウ等の言語の練習をなすべし。

第六時

オカアサンハより
終リリマて

目的指示

今日は螢の處を終りまで教授せん。

豫備及教授

- 一 昨日の處の読み方を復習せしむ。
- 二 大體の約話をなさしむ。
- 三 母はお花に何處が光ると答へしか。オシリノシロイトコロと書け。
- 四 トッテミセテアゲマセウと書け。
- 五 汝等はおはなの母は如何にせしやと思ふか。
- 六 然り一匹捕つておはなにやりました。

- 七 オハナニヤリマシタ黑板に提出読み方を授く。
- 八 おはなはどうしたてせう。
- 九 ヨロコンデと書け。
- 十 おはなはよろこんで珍らしさうにそれを見ました。
- 十一 メヅラシサウニと黑板に提出し読み方を授く。
- 十二 此の下の繪の四角なるものは何か。
- 十三 然り、螢籠を見たるものあるか。
- 十四 黑板上の文字を讀ましむ。
- 十五 書籍につきて豫習を命ず。
- 十六 優等生より順次に読み方を練習せしむ。
- 十七 意義を話さしむ。
- 十八 書き方の練習

練習及應用

- 一 お花の母は如何にせしか。
- 二 一ピキトツテヤリマシタ。と書け。(平假名に改め)
- 三 お花は如何にせしか。
- 四 メヅラシサウニソレナミマシタ。と書け。(平假名に改め)

備考及注意

- 一 凡て讀本中にある言語は、兒童をして成るべく應用的に他の事實に活用せしめんことを要す。然らざれば言語練習の効を收むる能はず。
- 二 注意すべき假名遣……メヅラシサウニ
- 三 練習すべき言語……ヤリマシタ、ヨロコンデ、メヅラシサウニ

第七時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさしむ。

復習の方法

- 一 子供が夕方如何なる歌をうたひて表を通りしか。
- 二 お花は誰と共に表に出でたりしか。
- 三 螢が如何なる有様をなして暗き中を飛んで居たりしか。
- 四 お花は母に何といつて話せしか。
- 五 母はお花に何といつて答へしか。
- 六 母は如何にせしか。
- 七 お花は母より貰ひたる螢を如何にせしか。
- 八 全課を數段に分ちて讀み方・話し方を練習せしむ。

練習及應用

一字句の書取

ニガイミツトアマイミツ、グンカナウタツテトホリマシタ、ホタル
 ガ一ピキニヒキニヒキ四ヒキ、ヒカツタリキエタリ、キレイデス
 オホシサマノヨーデス。

二 約文

ホタルガニヒキニビキトダンダンヨツテキマシタ。
オホシサマノヨードキレイデオザイマス。
ドコガアンナニヒカルノデスカ。オシリノシロイトコロガヒカル
ノデス。
オカアサンハービキトツテヤリマシタ。オハナハソレヲヨロコン
デミマシタ。

三 全課の読み方及話し方復習

第十二 せんたく

教授の目的

内容上

衣服の清潔の衛生上必要なことを知らしめ、殊に夏日汗の多く出つる時は洗濯の最も肝要なることを知らしむ。

形式上

平假名にて綴りたる歌を最も流暢に達讀せしめ、及之を了解するの能を養ふ。

時間の配當

第一時 けふはあをぞら……かけるほす

第二時 あらつてかけた……ひとへもの

第三時 全課の復習

教授案

第一時

けふはあをぞらより
かけるほすまで

目的指示

今日は洗濯の歌につきて教授せん。
豫備及教授

- 一 何故に人は常に洗濯をして清潔にするを要するか。
- 二 衣服の洗濯には如何なる日を最もよしとするか。
- 三 然り天氣の好き日が最もよし。よいてんきと黒板に出す。
- 四 好き天氣の日に空を眺めば其色は如何。
- 五 あをぞらと提出す。
- 六 洗濯をせし衣服は如何にするか。
- 七 然り竿にかけてほすなり。
- 八 かけるほすと書け。
- 九 黒板上に提出せし文字の読み方練習
- 十 書籍につきて豫習をなさしむ。
- 十一 優等生一兩名に讀ましむ。

- 十二 大意を話さしむ。
- 十三 教師の範讀及讀み方練習
- 十四 書き方の練習

練習及應用

- 一 まへのうちでもうしろのうちでも。と書け。
- 二 みづをくむ、きものをあらふ。と書け。

備考及注意

- 一 歌は特に流朗に讀ましめんことを要す。
- 二 注意すべき假名遣……アヲソラ、マヘ、ミヅ、ケフ、アラフ
- 三 練習すべき言語……ヨイテンキ、トナリ、アラフ

目的指示

第二一時

あらってかけたより
ひとへのまて

本日も亦昨日の續きを教授せん。
豫備及教授

- 一 よいてんきと書け。
- 二 洗ひし衣服は如何なるものに掛けて之を干すか。
- 三 さをだけ黑板に提出す。
- 四 衣服の縞柄には如何なるものがあるか。
- 五 しまやかすり黑板に提出す。
- 六 如何なる衣服を最も洗濯すべきか。何故か。
- 七 ひとへものと書け。
- 八 黑板上に提出せし文字を讀ましむ。
- 九 書籍につきて豫習せしむ。
- 十 優等生數名に讀ましむ。
- 十一 大意を話さしむ。又は教師之れを説明す。

- 十二 讀み方を練習せしむ。
- 十三 書き方の練習

練習及應用

- 一 あらつてさをだけにかきました。と書け。
- 二 さをだけのほしものはたらゝじろゝのひとへもの。と書け。
- 三 このほしものはたらゝのです。と書け。
- 三 じろゝのひとへものはしまです。と書け。

備考及注意

- 一、注意すべき假名遣……サヲダケ、ヒトヘモノ
- 二、練習すべき言語……アラッテ、ホシモノ、ヒトヘモノ

第三時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさしむ。
復習の方法

數段に分ち主として讀み方を復習し。又其主義の大意を話さしむ。
練習及應用

一 字句の書取

あをぞら、まへのうちでも、となりでも、みづくもあらふ。さきだけ、
ほしもの、ひとへもの。
けふはあをぞらよいてんき、たろーじろーのひとへもの。

第十三 シホー

教授の目的

内容上 四方の方角の觀念を附與す。

形式上 新出文字、日子を教へ且つ片假名を以て綴りたる文字文章を讀み及解し得る
能を養ひ併せて言語の練習をなさしむ。

時間の配當

- 第一時 第十三課初……………ヒロゲテタツテキマス
- 第二時 ヨノヨノカゲは……………ウシロノホーチニシトイヒマス
- 第三時 マタミギノテノホー……………キタトイヒマス
- 第四時 ヒガシ、ニシ、ミナミ……………ハイルホーハニシデス
- 第五時 ミナサン、ユノ子ガ……………終り
- 第六時 全課の復習

教授案

第一時

第十三課初行より
ヒロゲテタツテキマスまで

目的指示

今日より方角のことにつきて教授せん。

豫備及教授

- 一 繪畫中の太陽を指して……是は何か、今日がてる處を畫けるなり。
- 二 片假名にてヒガデルと書け。
- 三 本字の日の字を教へん。
- 四 日の字提示讀み方・書き方・運筆順序・類似の片假名との比較をなさしむ。
- 五 人のねどこより起き出る頃を何といふか。
- 六 アサと書け。
- 七 今日の朝のことを何といふか。

八 ケサと書け。

九 此の子供は何れの方を向いて居るか。如何にして居るか。

十日 ニムイテテヲヒロゲテと黑板上に提出す。

十一 黑板上に提出せられたる文字の讀み方練習

十二 本日の處書籍につきて豫習を命ず。

十三 優等生二三人に讀ましむ。

十四 意義を話さしむ。

十五 教師の範讀及兒童の練習

十六 書き方練習をなす。

練習及應用

- 一 ヨガハヤクアケルヨーニナリマシタ。と書け。
- 二 リタクシハケサモ五ジニオキマシタ。と書け。
- 三 アサ日ニムイテタツテキマス。と書け。

四 日ノマルノハタと書け。平假名で書け。
備考及注意

- 一 日の字を教授するには片假名のロよりするを便とす。
- 二 日の字は必ず太陽の日の字なることを児童に了解せしめんことを要す。然らざる時は假名と同一視して如何なる場合にも、ひの音を有する文字の所へは此の字を用ふることをあ
るべければなり。
- 三 朝起の衛生上其他に於て必要なることを説くべし。

第二一時

ニシトイロカサマエリ
ニシトイロカサマエリ

目的指示

今日は昨日の續きを教へん。

豫備及教授

- 一 日ガハヤクデルと書け。
- 二 このこは今朝ハヤクオキマシタと書け。

- 三 この子は朝早く起きて如何になせしか。日ニムイテキマスと書け。
- 四 この小兒の後にあるものは何と思ふか。
- 五 カゲと書け。
- 六 この小兒の影は其の何れの方に見えてゐるか。
- 七 ウシロニミエテキマスと書け。
- 八 この小兒は今、日の出る方に向つてゐるなり。日の出る方を何といふか。知れるものなきか東か、西か。
- 九 ヒガシと書け。
- 十 然らばこの小兒の後の方を何といふか。
- 十一 ニシと書け。
- 十二 日はいつれより出ていつれに入るか。
- 十三 昨日は日の字の本字を習ひしが本日は「ヨ」の字の本字を教へん。

- 四 子の字提出読み方・書き方及運筆の順序教授
- 五 本日の處を復演せしむ。
- 六 黑板上に提出せし文字の読み方練習
- 七 書籍につきて豫習せしむ。
- 八 教師の範讀及優等生より順次に読み方練習
- 九 話し方及書き方練習

練習及應用

- 一 この子の後に見えてゐるのは何か。
- 二 コノ子ノウシロニミエテキルノハカゲデス。と書け。
- 三 この子の前の方を何といふか。
- 四 マヘノホーヲヒガシトイヒトス。と書け。(平假名に改め)
- 五 後の方を何と云ふか。
- 六 ウシロノホーヲニシトイヒマス。と書け。(平假名に改め)

備考及注意

- 一 子の文字教授の際の注意前に同じ。但し應用の際、男の子、女の子、大きな子、おとなしい子等時間に餘裕あらば、種々應用せしむべし。
- 二 注意すべき假名遣……ミエテキマス、マヘ、イヒマス
- 三 練習すべき言語……マヘノホー、ウシロノホー

第三時

マタミキノヲノホーより
キタトイヒマスまで

目的指示

昨日は東と西との方角を知りし故本日は其他の二方の方角を教へん。

豫備及教授

- 一 昨日は如何なる本字を習ひしか。子と書け。
- 二 この子のかげは何れに見えしか。ウシロニミエテイマスと書け。
- 三 この子の前の方は何といひしか、後の方は、ヒガシ・ニシと書け。
- 四 右の手を指して……此方の手を何といふか。

- 五 ミギノテと書け。
- 六 この右の手の方を何といふか。知れるものなきか。
- 七 ミナミと書け。
- 八 片方の手を何といふか。
- 九 ヒダリノテと書け。
- 十 左の手の方を何といふか。
- 十一 キタと書くべし。
- 十二 本日の處を復演すべし。
- 十三 黑板上に提出せる文字の読み方練習をなすべし。
- 十四 書籍につきて豫習せよ。
- 十五 優等生より順次読み方を練習せしむ。
- 十六 話し方及書き方の練習をなせ。

練習及應用

- 一 右の手の方を何といふか。
- 二 ミギノテノホーハミナミデアリマスと書け。(平假名で書け)
- 三 左の手の方を何といふか。
- 四 ヒダリノテノホーチキタトイヒマス。(平假名で書け)

第四時

ヒガシニシニナミより
ハイルホーハニシテスまで

目的指示

本日は昨日の續きを教授せん。

豫備及教授

- 一 右の手の方を何といひしか。ミナミとかけ。
- 二 左の手の方は……キタとかけ。
- 三 其他猶ほ如何なる方角ありしか。ヒガシ・ニシとかけ。
- 四 此の四つを合せて四方といふなり。

- 五 シホーデと黒板上に出す。
- 六 此の四方の中にて東は、日の出る方はどの方か。
- 七 然り……日ノデルホーハヒガシと書け。
- 八 日のはいる方はどちらか。
- 九 ニシデスと書け。
- 十 今迄の處を復演せよ。
- 十一 黒板上に提出せし文字の読み方練習
- 十二 書籍につきて豫習せしむ。
- 十三 優等生より順次に読み方を練習せしむ。
- 十四 讀話し方及書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 四方とは何々をいふか。
- 二 四ホーハヒガシニシミナミキタノ四ツデアリマス。と書け。(平假名

てかけ)

- 三 日は毎日何れの方より出づるか又何れの方へ入るか。
- 四 日ハヒガシカラデテニシヘハイリマスと書け。(平假名で書け)

備考及注意

- 一 注意すべき假名遣……アハセテ
- 二 練習すべき言語……アハセテ、シホーデルホー、ハイルホー

第五時

ミナサンコノ子ガより
終リマテ

目的指示

本日も亦昨日の續きを教へん。

豫備及教授

- 一 何々を四方といふか。ヒガシニシミナミキタとかけ。
- 二 東と西とは日と如何なる關係あるか。日ノデルホー日ノハイルホ

- 一と書け。
- 三 今日は何れの問題が書物に書いてあります。書物を読み、誰か答へてみよう。
- 四 書籍につきて豫習せしむ。
- 五 優等生一兩人に讀ましむ。
- 六 意義を話なさしむ。
- 七 教師範讀をなし、讀み方を練習せしむ。
- 八 後は何れの方に當るか。
- 九 此の子若し右に向いたら前はどの方になるか。
- 十 此の子の右の手の方は何の方なりしか。
- 十一 さし、誰か此問題に答へ得るか。
- 十二 尙ほ讀み方及書き方を練習せしむ。

練習及應用

- 一 此の子は何へ向くのか。
- 二 ミギニムクノデス。と書け。
- 三 此の子が右に向けば、前は何のほうになるか。
- 四 マヘハミナミノホーニナリマス。と書け。(平假名に改め)
- 五 後は何のほうになるか。
- 六 ウシロハキタノホーニナリマス。と書け。(平假名で書け)

備考及注意

一 モシ……シタラの言語を使用して種々の事實を語らしめ以て之が練習をなすべし。

第六時

全課の復習

目的指示

本日は全課の復習をなさん。

豫備及教授

- 一 數段に分ち讀み方及話し方を復習す。
- 二 此の子の前の方を何といひ、後の方を何といひしか。
- 三 又右の手の方は、左の手の方は。
- 四 東西南北の四つを何といふか。
- 五 日は何れより出て何れへ入るか。

練習及應用

一 字句の書取

日ガアサハヤクデル、ケサモハヤクオキマシタ、テチヒロゲテ、マヘ
トウシロ、ミギトヒダリノテ、ヒガシ、ニシ、ミナミ、キタ、ヒガデル、ハ
イル。

二 約文

コノ子ハ日ニムイテタツテキマス。
マヘウシロガヒガシニシデ、ミギヒダリガミナミキタデス。

- 四 ホートハヒガシ、ニシ、ミナミ、キタノ四ツナイヒマス。
- 三 平假名の練習も適宜に之を交ふるを要す。

第十四 日とにじ

教授の目的

内容上 日の虹との關係を知らしめ、以て理科上の知識を附與せんとするにあり。
 形式上 新出文字大人の読み方書き方を教授し、且つ平假名及平易なる漢字を以て綴りたる文字及文章を読み且つ解し得る能を授け、兼て言語の練習をなさんとするにあり。

時間の配當

- 第一時 始より……………ひがしのほーにてます
- 第二時 あるゆふがた……………大きなにじがてました
- 第三時 ひとはこれを……………ほめました
- 第四時 にじは……………しりませんでした
- 第五時 そこでにじは……………あのよーにほめるのだ
- 第六時 日はこれを……………終り

第七時 全課の復習

教授案

- 第一時 始ひがしのほーにてますまで

目的指示

今日より日と虹のことに付きて教授せん。

豫備及教授

- 一 誰か虹を見たるものなきか。
- 二 虹は如何なる形をなして現はるゝか。
- 三 如何なる色彩をなして現はるゝか。
- 四 其色彩の順序は如何
- 五 虹と日とは如何なる關係を有するか。
- 六 日とむきあつて……………と黑板に提出す。

- 七 朝は何れの方に出づるか。
- 八 にしのほりと書け。
- 九 東の方に出づるのは何時か。
- 十 ゆふがたと書け。
- 十一 本日の處を復演せしむ。
- 十二 黑板上に提出せし文字の読み方を練習せしむ。
- 十三 書籍につきて今日の處を豫習せしむ。
- 十四 優等生に讀ましめ、且約話せしむ。
- 十五 讀み方、話し方及書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 虹は日と如何なる關係を以て出づるか。
- 二 むきあつててますと書け。
- 三 西の方に出づるのは何時か。

備考及注意

- 一 虹につきての觀念は、尋常第一學年の時に附與せるを以て、復習的に發問して一層明瞭確實なる觀念たらしめんことを要す。
- 二 虹につきての繪畫を準備せんことを要す。
- 三 「むきあつてて」といふ言語の練習必要なり。
- 四 注意すべき假名遣はにじ、ゆふがた

第二時

あるゆふがたより
大きなじがてましたまで

目的指示

今日よりは、虹が自慢をして失敗せし愉快なる話あり。其話しを教へん。

豫備及教授

- 一 虹は何と向き合せて出づるか。日とむきあつて。と書け。
- 二 朝は何れの方に、夕方は何れの方に出づるか。にしのほー・ゆふがた。と書け。
- 三 或る日の夕方に雨がやみたり。雨がやむとは如何にいふか。
- 四 あめはれてと黑板上に提出す。
- 五 日が雲の間より照り出せり。
- 六 くものあひだてりだしましたと黑板上に提出す。
- 七 然らば何れの方に虹が出づるならん。
- 八 ひがしのそらと黑板上に提出す。
- 九 東の空に大層大きな虹が出てたり。
- 十 大きなといふ漢字提出、讀み方書き方及書き方順序を教授す。
- 十一 今迄の處を復演せしむ。
- 十二 黑板上に提出せし文字の讀み方を練習せしむ。

十三 今日の處、書籍につきて豫習せしめ、然る後、優等生より順次に讀み方を練習せしむ。

十四 話し方及書き方を練習せしむ。

練習及應用

- 一 いまはあめがはれてゐます。
- 二 くものあひだから、日がてりだしました。
- 三 ひがしのそらに、大きなつきがてました。
- 四 大きな子・大きな日のまるのはた。

備考及注意

- 一 はれてあひだからするとそらの言語の練習をなさんことを要す。
- 二 大の字教授の際、類似文字「ナ」と連絡せしめんことを要す。且つ時間の餘裕あらば大の字を種々に應用せしむべし。
- 三 注意すべき假名遣ひ…あひだ

第三時

ひとほこれより
ほめましたまて

目的指示

今日も昨日の續きを教授せん。

豫備及教授

- 一 昨日の處の讀み方を復習せしむ。
- 二 約話せしむ。
- 三 昨日は如何なる本字を習ひしか大きなと書け。
- 四 左様に大きな虹が出てたらば、汝等は何とて賞むるか。
- 五 きれいと書け。
- 六 人々は、其大きな虹を見て、奇麗とて賞めたり。
- 七 みんなと書け。
- 八 いてほめましたと書け。
- 九 今迄の處を約話せしむ。

十 黑板上の文字の讀み方を練習せしむ。

十一 書籍につきて豫習せしめ、且つ優等生より順次讀み方を練習せしむ。

十二 話し方及書き方の練習を命ず。

練習及應用

- 一 人々は大きな虹を見て何とて賞めしか。
- 二 きれいだきれいだと書け。
- 三 きれいなはなですと書け。
- 四 みんなのひとが、おはなをほめましたと書け。

備考及注意

- 一 みんなきれいほめましたの言語を練習せんことを要す。

第四時

しりませんでした

目的指示

本日も昨日の話しの續きを教へん。

豫備及教授

- 一 昨日の處を約話せよ。
- 二 大勢の人は、何といふて賞めしか……きれいだ。と書け。ほめる。と書け。
- 三 虹と日とは、如何なる關係を有せるか。
- 四 虹は、日がなくとも出づることの出來得るものか。
- 五 できることができんと黒板に提出す。
- 六 然るに、虹自身は右の様なることを知らざりき。
- 七 じぶん。と書け。
- 八 しりませんでした。と黒板に提出す。
- 九 黒板上に提出せし文字の讀み方を練習せしむ。

- 十 書籍につきて、本日の處を豫習せしむ。
- 十一 優等生一兩人に讀ましめ、然る後本日の處を約話せしむ。
- 十二 教師範讀、讀み方を練習せしむ。
- 十三 話し方及書き方の練習をなさしむ。

練習及應用

- 一 それは、じぶんでもつてまゐります。と書け。
- 二 できることができません。と書け。
- 三 わたくしのものだといふことをしりませんでした。と書け。

備考及注意

- 一 練習すべき言語……じぶん できるものだ しりませんでした
- 二 注意すべき假名遣……じぶん

第五時

そこにてにじはより
あのようにほめるのだまで

目的指示

虹は自分の奇麗なるに比して、太陽の奇麗ならざる事を誹ることにつきて教へん。

豫備及教授

- 一 昨日の處の読み方を復習せしむ。
- 二 虹は如何なることを知らざりしか………しりませんでした。と書け。
- 三 虹は左様なることを知らず、自慢して次の様にいひたり。
- 四 つぎのよーはいひましたと黒板上に提出す。
- 五 日は只出るだけ故賞讃する人なけれども、自分は美しき故人が賞讃するなりといへり。
- 六 ただでるだけと黒板上に提出す。
- 七 このとほりあのよーはと提出す。

- 八 人の字を提出し、其読み方、書き方及書き方の順序を教授す。
- 九 今迄の處を復演せしむ。
- 十 黒板上に提出せし文字の読み方を練習せしむ。
- 十一 書籍につきて豫習せしむ。
- 十二 優等生より順次に読み方を練習せしむ。
- 十三 話し方及書き方を練習せしむ。

練習及應用

- 一 日は何故賞める人がないといひしか。
- 二 ただでるだけであります。と書け。
- 三 虹は何故に人が自分を賞めるといひしか。
- 四 このとほりうつくしいです。と書け。
- 五 この子は、おーちやくだから、たれもほめる人がない。と書け。
- 六 あのように、きれいにさきました。と書け。

備考及注意

- 一 人の字を教授する際大の字と比較せしめんことを要す。
- 二 練習すべき言語及文字……ただ たれも このとほり あのよゝに 人
- 三 注意すべき假名遣ひ……とほり

第六時 日はこれをより
終りまで

目的指示

虹が大層自慢せし結果如何なりしかにつきて教授せん。

豫備及教授

- 一 虹は日につきて如何なることをいひて誹りしか。ただてるだけだ。と書け。たれもほめる人がない。と書け。
- 二 虹は自分のことを何といひて自慢せしか。このとほり、うつくし。と書け。……あのよゝにほめる。と書け。

練習及應用

- 一 日は虹の自慢を聞きて如何にせしか。
- 二 すぐくもにかくれました。と書け。

- 三 虹は如何になりしか。
- 四 すぐきえてしまひました。と書け。
- 五 うつくしかったつきが、くもにかくれしました。と書け。
- 六 わたくしは、これをききました。と書け。

備考及注意

- 一 練習すべき言語……すぐ かくれました うつくしかった きえてしまひました
- 二 注意すべき假名遣……きえてしまひました

第 六 時

全課の復習

目的指示

全課の復習をせん。

復習の方法

- 一 虹と日とは、如何なる關係あるか。

- 二 虹は朝は如何なる方に出るか。夕は如何なる方に出づるか。
- 三 大きな虹の出でしは如何なる時なりしか。
- 四 人々は之を見て、何といふて賞讃せしか。
- 五 虹は自分は何がなくては、出ることが出来ることを知らざりしか。

- 六 虹は日に對して如何にいひしか。又自分のことを如何にいひしか。
- 七 日は如何なせしか。
- 八 虹は如何なりしか。

練習及應用

- 一 字句の書取。

むきあつて、あさ、ゆふかた、あめがはれて、そらがはれて、日がてりだしました、きれいだ、しりません、このよ、あのとほり、大きなにじ、大きな人。

二 約文

にじは、あさはにしに、ゆふがたはひがしにてます。
 あるゆふがた、あめがはれましたら、大きなにじがでました。
 にじは、「日がなくてはでることができません」といふことをしりません。
 にじは、じぶんはこのとほりうつくしいから、人がほめるのだとい
 ひました。
 日がくもにかくれました。するとにじもきえてしまひました。

三 書籍の読み方及話し方の復習をなす。

備考及注意

一 此の談話につきて、妄に人を誹るべからざること、及自慢すべからざること、を誠諭せんこ
 とを要す。

第十五 せみ

教授の目的

内容上 蟬につきての庶物観念を興へ、以て理科的思想を涵養せんとするにあり。

形式上 新出文字木中土上の読み方及書き方を教へ、及び平假名及簡易なる漢字を以

て綴りたる文字・文章を読み且つ了解し得べき能を養ひ、並に言語の練習を
 爲すにあり。

時間の配當

- 第一時 始め……………なんぞございますか
- 第二時 からだは……………ききました
- 第三時 おとうさんは……………大きくなります
- 第四時 してあつくなると……………ぬけててます
- 第五時 人はこのきものを……………をしへてやりました
- 第六時 じろーは……………終

第七時 全課の復習。

教授案

第一時

始めてごさいますかまて

目的指示

今日よりは蟬につきて教授せん。

豫備及教授

- 一 汝等蟬を見たることなきか。
- 二 蟬は何月頃出づるか。
- 三 如何なる形をなすか。
- 四 其羽翅は如何。
- 五 其鳴く聲は如何。其種類は。
- 六 ある所に次郎といふ子がありたり。
- 七 じろー。と書け。

- 八 其の次郎が、梅の木の下にて面白きものを見付けたり。
- 九 うめのき。と書け。
- 十 木の字の読み方、書き方及其運筆の順序等を授く。
- 十一 おもしろいもの、みつげと黑板上に提出す。
- 十二 其ものを父に見せて左の如くに云ひたり。
- 十三 おとうさん。と書け。
- 十四 汝等は、人に物を尋ぬる時には、如何なる言語を用ふるか。
- 十五 なんてございますかと黑板上に提出す。
- 十六 今迄の處を復演せしむ。
- 十七 黑板上に提出せし文字の読み方を練習せしむ。
- 十八 書籍につきて本日の處を豫習せしむ。
- 十九 優等生より順次に読み方の練習を命ず。
- 二十 話し方及書き方を練習せしむ。

練習及應用

- 一 うめの木、まつの木、さくらの木。と書け。
- 二 おもしろいほんがあります。と書け。
- 三 せんせい。これはなんてございますか。と書け。
- 四 おとうさん、これをみつけました。と書け。

備考及注意

- 一 蟬の實物を示して、其形態習性等を詳細に説明すべし。
- 二 木の字を教授の際、十・人、と比較及分解して授くべし。
- 三 練習すべき言語及文字……おもしろい みつけ なんてございますか
- 四 注意すべき假名遣……おとうさん

第二一時

からだはより
ききましたまで

目的指示

今日は、次郎が如何なるものを見つけたるかにつきて教授せん。

豫備及教授

- 一 次郎は何の下にて見つけしか。うめの木。と書け。
- 二 如何なるものを見つけしか。おもしろいもの。と書け。
- 三 誰に見せしか。おとうさん。と書け。
- 四 父に何といふて問ひしか。
- 五 これはなんでございますか。と書け。
- 六 次郎が父に見せたるものは、其體が大きな蜂に似て居る。
- 七 汝等は蜂を知れるか。
- 八 大きなはち。と書け。
- 九 さうして其足が六本ありたり。
- 十 あしが六ぼんと黒板上に提出す。
- 十一 又其中は何もなく、背が二つに割れて居たり。
- 十二 なかはから。と書け。